

令和6年度・令和7年度
川崎市社会教育委員会議
幸市民館専門部会 報告書

「新しくなった市民館へ、ふらっと立ち寄ろう！」
～リニューアルする幸市民館が区民にとって身近な場で、
学び・つながり・地域づくりを進めるために～

令和8年3月
川崎市社会教育委員会議幸市民館専門部会

はじめに	1
1. 研究の背景	2
2. 研究の目的	5
3. 研究の経過	6
4. アンケート実践	
シールアンケート	8
二次元バーコードによるアンケート	8
5. 実践報告	
(1) 対面によるシールアンケート	12
(2) 二次元バーコードによるアンケート	19
(3) 幸区内小学校児童へのアンケート	22
6. 研究の成果	27
(1) 参加型の調査活動の意義	
(2) 広報戦略の再構築の必要性	
(3) 多機能型公共施設への転換	
(4) 地域の多様性（ダイバーシティ）への視座	
(5) 市民として子ども主体の尊重	
(6) 調査方法と広報活動との連動性	
(7) 市民参加による施設経営の価値	
(8) 市民との協働・共生に基づく施設運営の確認	
(9) 学校と地域との関係の努力の成果	
7. 今後の課題・展望	29
おわりに	33
報告書作成メンバー	33
参考文献	33
会議録	34
専門部会委員名簿	42

はじめに

私たち 川崎市社会教育委員会議幸市民館専門部会（以下「専門部会」）は市民と市民館との間を取り持つ橋渡し役を担っている。多くの市民の思いをすくい上げて市民館の発展に寄与するとともに、市民館がより地域において必要な拠点となるべく活動している。市民館を利用する市民にとって市民館が特別な学びの場であり、ふだんの日常的な憩いの場であることを求めてきた。

今期専門部会では、標題のとおり、「新しくなった市民館へ、ふらっと立ち寄ろう！」をテーマに掲げて研究に取り組んできた。令和10年度よりリニューアルする市民館がこれまで以上に市民の身近で気軽に利用できる施設になるよう、「ふらっと立ち寄れる」市民館を目指すために、私たちに何ができるかを考えながら協議してきた。その結果、市民の居場所として日ごろから気軽な利用の上に「学び」が展開すること、継続的な学習活動を通して地域の中に人と人との「つながり」が生まれること、豊かな仲間づくりの広がりによってまちが活気づくことで持続的な「地域づくり」を進めることができるという思いに至った。

この報告書では、これから市民館が装いを新たにすまでの間に私たちが考えなければならない点は何かをめぐって計画を立て「市民アンケート」に取り組み、その結果を中心にまとめることになった。市民から集まった多くの声を頼りに協議した成果を市民館の利用の向上と事業の発展のために活かしていけたらと考える。

また、今回のアンケート実施の際に、幸市民館・日吉分館の館長をはじめ事務局スタッフから多くの援助を得ることになった。やはり市民館は所属職員による手厚い支援があってこそ社会教育施設としての役割を果たすことができることをあらためて実感することができた。市民主体で取り組む多様な学習活動を日常的に支える組織的な職員体制があつての公共施設であると思う。

最後に、いろいろな場所や方法で実施された今回のアンケートにご理解を示し、お忙しい中にもかかわらずご協力をいただき、たくさんの回答をお寄せくださった市民の皆さまに厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

1. 研究の背景

(1) 説明の経過

[行政担当者からの報告]

川崎市教育委員会は、令和3年3月に「今後の市民館・図書館のあり方」を策定し、これに基づいて市民館・図書館の効率的・効果的な管理運営手法を行なうため令和4年8月には「市民館・図書館の管理・運営の考え方」を策定した。そこでは、市内の市民館・図書館において令和7年度より順次、指定管理者制度を導入することによって、それぞれの施設運営や施設整備を行なうことになった。すべての市民が生涯を通じて学び続けることができるように、市民館・図書館がその役割を果たすことが目的であるとされている。この計画に基づいて令和7年4月から中原市民館、高津市民館・橘分館では指定管理者による運営が始まり、幸市民館に関しては、改修工事が予定されているので調整中とのことだった。

令和6年度第1回専門部会が6月24日に開催され、議事のひとつで教育委員会事務局生涯学習推進課より「川崎市幸市民館・幸図書館改修基本計画（案）」について説明があった。まず、工事関係では、令和7年度末まで実施設計を取りまとめ、令和8年度後半から改修工事に着手する予定であり、令和10年4月から供用開始をめざすとのことだった。次に、運営関係では、工事期間中の運営や代替機能等の検討を行なうとともに、指定管理者制度の導入に向けて条例改正や指定管理者募集などの準備を行なっていくという説明報告を受けた。その際、パブリックコメントで市民の意見を募集しているとの案内があり、令和6年5月30日から7月1日までの期間に意見を述べるができるということで、私たち委員の中には意見を投稿した委員もいた。その結果、令和6年8月に「川崎市幸市民館・川崎市立幸図書館改修基本計画」が策定され、公表されるに至った。

なお、令和8年1月29日の文教委員会で所管事務の調査（報告）「幸市民館・図書館改修工事について」で、工事期間は令和8年10月中旬～令和10年5月中旬、供用開始は令和10年7月にスケジュールが変更することが報告された。

[令和6年6月24日の説明報告内容]

基本理念（コンセプト）と基本方針

1 基本理念（コンセプト）

多くの市民に愛され利用され続ける“学びといこいの場”

2 基本方針

基本理念を実現するため、3つの基本方針を次のとおりとします。

(1) 気軽にふらっと立ち寄れる“サードプレイス”

(2) 多世代が集まり自由に過ごす“集いの場”

(3) 区民や地域団体が集まり交流する“仲間づくりの場”

第7章 基本理念(コンセプト)と基本方針

1 基本理念(コンセプト)

今回の幸市民館・幸図書館の改修に当たり、「今後の市民館・図書館のあり方」を踏まえ、多くの市民に愛され利用され続けるために、市民の学びを支え続ける生涯学習拠点とします。

また、各種調査により把握した課題や市民意見を踏まえ、居心地のよい施設づくりや、人と人をつなげるコミュニティ創出の場として、だれもがふらっと立ち寄り、仲間づくりや、地域への愛着を育むことのできる「いこいの場」をめざします。

本改修における基本理念(コンセプト)を次のとおりとします。

多くの市民に愛され利用され続ける“学びといこいの場”

2 基本方針

基本理念を実現するため、3つの基本方針を次のとおりとします。

(1)気軽にふらっと立ち寄れる“サードプレイス”

明るく開放的な空間とし、入りやすい雰囲気づくりやわかりやすいレイアウトを行うことで、これまで利用していなかった人もふらっと立ち寄って自由に過ごせる場をめざします。

(2)多世代が集まり自由に過ごす“集いの場”

利用しやすい空間づくりや多世代の意見等を取り入れたルールづくりを行い、若い世代を含めた多様な世代が集まることで施設の活性化を図り、幅広い世代に利用される場をめざします。

(3)区民や地域団体が集まり交流する“仲間づくりの場”

交流しやすい空間づくりや職員を介したつながりづくりにより、区民や地域団体が話し合いや交流を行い、仲間づくりや地域づくりができる場をめざします。

(2) 専門部会での協議の経過

以上の説明報告を受けて、令和6年度第2回幸市民館専門部会(令和6年9月25日)で協議を行ない、そこで出された各委員からの主な意見は次のとおりであった。

[意見内容]

- 幸市民館・日吉分館の事業についての認知度が低い。広報方法・手段の問題も大きい。
- 幸市民館・幸図書館の改修工事について、改修期間、貸館休止の情報を知っている区民も少ないのではないかと。(少なくとも利用者に対して情報提供し、周知徹底されたい。)
- 改修後の指定管理者制度導入についても同様のことが言える。(そもそも指定管理者制度や市が導入するに至った理由などについても市民の中に理解が及んでいないかもしれない。)
- 令和4・5年度の本専門部会の報告書では、『「笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して」～人・つながり・地域づくりを進める幸市民館～』として、現状を踏まえた中で市民館の取り組む事業を述べているが、今期は実践として、どうしたら親しみやすく来館いただける市民館になるかについて、市民アンケートの実施を行なう。その際にモデルとなる事業の実施を行なうのか?アンケート実施となった場合、アンケートの内容(今回の専門部会委員の意見を反映)・どのような方法で実施するか、アンケートの集約・分析などについても専門部会委員で検討・実施していく。モデル事業実施の場合、どのような内容・時期になるかについても検討。

- 改修中についての課題は、令和8年3月の報告書完成時には、貸館休止に関する代替え施設の会場情報、令和8・9年度の社会教育振興事業もある程度方向性がでてくると思われる。
- 令和8年度の社会教育振興事業に関しては、令和6年度末～令和7年度夏休み前（市の予算要求時期）までに要望をまとめ、一つの報告として提案する方法もあると考えられる。
- 幸市民館がこれまで培ってきた事業が改修後の事業に継承されていくこととともに、今より活発な施設利用がされることを願っている。
- 今後の幸市民館のあり方としては、事業を担う専門職の配置と市民参加の保障を前提とした上で、幸市民館の何を継承すべきかと考えるかを大事になるように思う。

[決議事項]

そこで、今期の報告書の内容については、上記の意見記録の中に見られるとおり、「市民アンケート」の実施と「モデル事業」の実施という2つの案が考えられると私たちは受け止めることになった。

上記の2つの案を行なうのもよいと思われる中で押さえることになった方向は、①親しみが持てる施設の利用の方法を考えること。あるいは、②多くの市民が参加したくなる市民館事業のあり方考えること。2つのうちのどちらかを選んだ上で、前者の場合は「市民アンケート」の実施を通して施設をどう利用するかを中心に報告書をまとめることにし、また後者の場合は「モデル事業」の実施により事業のあり方を報告書にまとめることにした。

(3) 研究の方向性の決定

以上の協議の結果、今期の研究では「市民アンケート」を実施することに決まった。その際に委員から出された条件や意見は次のとおりであった。

[委員からの意見の内容]

- 幸市民館で実施する大きなイベントがあり、1月はニューイヤーフェスタ、2月は多文化フェスタ、3月は幸文化センター祭がある。会場の入り口にアンケートを置きアンケート用紙には二次元バーコードがあれば、後でも回答いただける。
- 町内会・自治会の回覧に二次元バーコードで改築について聴くことも可能。市民が何を望んでいるかの調査になる。
- 専門部会は令和6・7年度。改修工事は令和8・9年度だと思うが、市民はそのスケジュールを知らない。アンケートを取ることで一緒に改修工事のお知らせもできる。
- アンケートの効果を考えたい。市民館をどう使うのか。利用していくか。アンケートを使ってPR効果を狙うのはどうか。
- 子どもも市民館で事業を実施していることを知っているのか。子どもも市民である。
- 戦略的にアンケートを実施する。利用団体にも実施するが、良い答えをあまり期待し過ぎない方が良くもしいない。
- 目的を定めて誰をターゲットにするかという戦略が必要である。
- アンケートを活用してPRするのが良いと思う。住民はチラシを見る機会があっても、専門部会で配布された事業一覧にあるような事業を実施していることは知らない。
- 「どの事業に興味がありますか？」と聞くことが事業のPRにもなる。

2. 研究の目的

令和8年9月から始まる施設リニューアルに向けた大規模な改修工事を通して幸市民館は装いを新たに生まれ変わる事となった。今回は建て直しということではないため、外観はほとんどそのままとなるが、施設の内部は壁を取り壊したりして部屋の配置などを新しくするという事である。新しくなった施設をどのように有効に市民が使えるのか楽しみなどところである。

そもそも市民館は、地域コミュニティの拠点であり、市民や地域住民が集まり、交流を深める公共の場としての役割を持っている。しかも教育制度上は社会教育の場（施設）であり、また多世代交流の拠点でもあり、あらゆる世代が生涯学習に取り組むことができる。さらに、災害時の緊急避難場所になることも考えられ、多岐にわたる重要な役割があるのではないだろうか。

しかしながら、かねてより懸念されていた点がある。地域コミュニティにとって大切な拠点となる公共施設がどれほど市民や地域住民に知ってもらえていて、どれだけ利用してもらっているのかなどはよくわかっていないかもしれないという懸念を抱えてきた。とりわけこれから幸市民館が改修工事に入るということは、市民が日ごろ取り組んでいる学習活動が一時的ではあるが市民にとってはだいぶ長期にわたって活動が制約を受けざるを得なくなるということであり、情報公開がされているにもかかわらず、市民感覚として、そうした重大な事柄さえも一般市民にはいまだ知られていないのではないかとこの心配を私たちは持ち始めたのである。

そこで、今期の専門部会では、現状の把握と改修後に期待してもらえるようにするために、会議室で話し合っているだけではなく、市民や地域住民の生の声を聞こうと地域に出てアンケート調査を実施し、私たちが抱いた思いを確かめることになった。

今回の市民アンケートの内容について、先に述べた事柄を整理すると、①幸市民館の現状の認知度（幸市民館がどれほど市民に認知されているのか）、②改修工事の周知度（改修工事期間が市民にどれだけ周知されているのか）、③改修後リニューアルした市民館への期待度（新しくなる幸市民館に市民がどれくらい期待を持っているのか）などを探ることが今回の調査の目的となる。これらの点を私たちが知る事により、市民館がより身近に思え、学び・つながり・地域づくりがより進むようになることを目指し、施設運営のあり方について専門部会委員の意見を取りまとめられるようにしたいと思っている。

さらに付け加えれば、今回の調査活動を通して、市民館と市民とのパイプ役を果たす私たち専門部会が、市民館に関する情報を多くの市民と共有することによって、市民が幸市民館に対する興味関心をより一層湧き起こし、新しい市民館の利用に向けて参加意欲が喚起させることになれば、結果として市民との連携や協働が促進されることになるという密かな期待もある。

3. 研究の経過

[調査の内容]

まず、最初に今回の調査で実施する「市民アンケート」の設問内容を決めることにした。そして私たち専門部会の協議を通して決めた目的に沿って、以下の項目に従いアンケートの設問内容を精査して調査に取り組むことになった。

(1) 幸市民館の改修工事を知っているか？

(2) 改修後の幸市民館を利用したいか？

→利用したい場合、どんなことに利用したいか？

→利用したいと思わない場合、その理由は何か？

説明を加えると、(1)の設問事項を設けた狙いは、幸市民館の市民の認知度も含めて考察ができると想定してのことであった。また、(2)の設問事項の狙いは、リニューアルした幸市民館に対する市民が寄せる期待度を計ることにあり、具体的な利用方法を聞くことにより改修後の市民館の事業の持ち方しだいで利用者の増加につながれたらと考えたことによるものであった。それと同時に、新しい市民館を利用したくないという考えについて知ることにより、これからの利用の促進に対する課題を抽出することになると想定して設けたものである。

[調査の方法]

次に、今回のアンケート調査の方法について、直接に「対面方式」よる方法とインターネットを活用して二次元バーコードを利用した「オンライン入力方式」による方法を考えた。具体的には次のとおりである。

(1) 対面方式によるアンケート調査

幸市民館や日吉分館で開催される行事・イベントに出向いて来場者に直接的に呼びかけてアンケートを実施した。模造紙に設問を書き、来場者にシールを渡して回答を該当する欄に貼っていただくというものである。

(2) オンライン入力方式によるアンケート調査

二次元バーコードを利用した方法では、一般の方向けとしては幸市民館だよりもアンケートの呼びかけ文を掲載し、幸市民館玄関ロビーにアンケートを掲示して回答を得るようにした。また、幸区内小学生向けとして教具のGIGA端末を利用して学校を通じて生徒から回答が得られるようにした。

[参考資料]

*調査にあたりスケジュール計画を立ててアンケートを実施することにした。

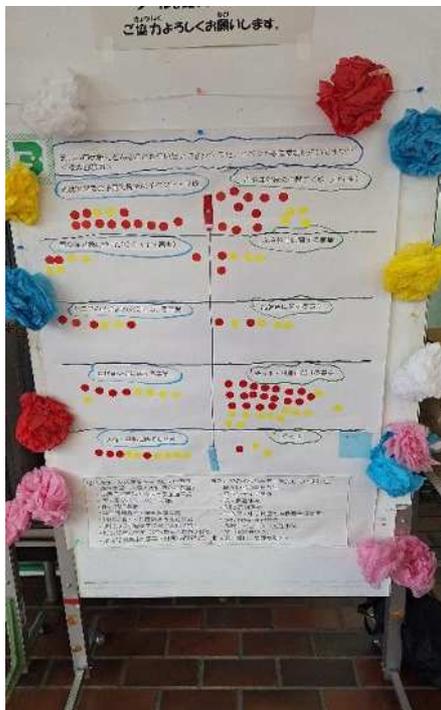
令和7年1月19日	アンケート内容など修正の締切り
1月下旬	アンケート内容を完成。
2月8日	『多文化フェスタ』でシール貼りアンケート実施。 模造紙を用意し、設問・シール貼付場所などレイアウトと回答表を作成。当日、受付でアンケート用紙・シール渡し、説明等。 アンケート用紙の原稿作成
2月16日	第4回専門部会でアンケート項目確定。市民館だより原稿提出
2/16～3/6までに	アンケートの印刷
3月8・9日	『幸文化センター祭』受付でアンケート用のシール渡し、説明など
3月23日	『さくらフェスタ日吉』受付でアンケート用のシール渡し、説明など
3月	委員の所属団体へアンケート協力依頼
3月	幸区小学校校長会に児童へのアンケート依頼・・・配布日、締切り日なども含め調整しお願いする。なお、場合によっては委員の所属小学校の児童への実施
令和7年5月19日	二次元バーコードの回答の締切日
5月下旬	アンケートの集約・集計
6月	令和7年度第1回専門部会で、結果内容について検討。 その際、報告書のプロット及び担当を決める。
10月	令和7年度第2回専門部会で、報告書の素案の提出
12月	令和7年度第3回専門部会で、報告書完成
令和8年2月	令和7年度第4回専門部会で、報告書確定

*令和7年度第2回～第3回専門部会までの期間で内容を調整。

4. アンケート実践

【シールアンケート】

- (1) 「多文化フェスタさいわい」 令和7年(2025年)2月8日 10:00~16:00



- (2) 「幸文化センター祭」 令和7年(2025年)3月8・9日 9:30~16:00
 (3) 「さくらフェスタ日吉」 令和7年(2025年)3月23日 10:00~15:30

【二次元バーコードによるアンケート】

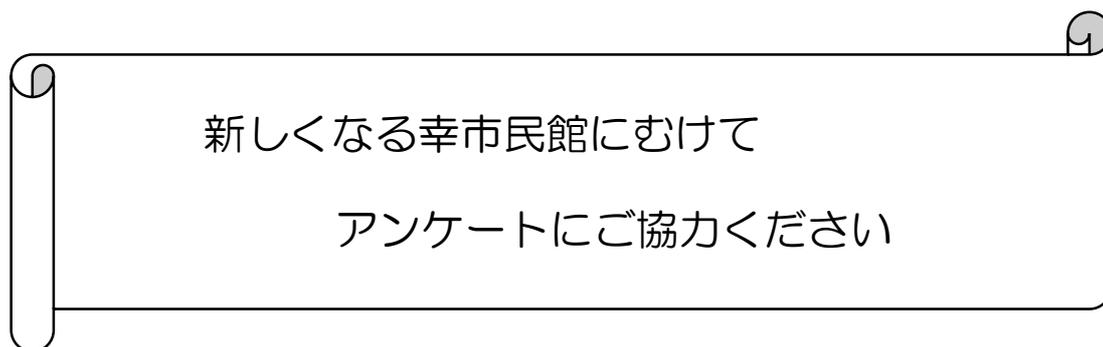
- (1) 幸市民館だより



- (2) 幸市民館1階ホール前掲示ポスター



(3) 配布用アンケート用紙(表)



幸市民館専門部会では、区民の皆さんの学習要求に応えるための活動や、運営がさらに豊かになることを目指し、定期的に会議を開いて地域生活の課題等を審議しています。

幸市民館は、大規模改修工事のため令和8年9月から令和10年3月までの期間は休館となります。

つきましては、休館後に新しくなる幸市民館にむけて、区民の方がたにアンケートを実施しますので、ご意見を以下の二次元バーコード（QRコード）よりお寄せください。

【受付期間】令和7年4月1日（火）9時 ～ 5月19日（月）17時

【主催】川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会・川崎市教育委員会



なお、二次元バーコードが読み取れない方は、この用紙の裏面からご回答いただき、担当者または、市民館職員にお渡しください。

(3) 配布用アンケート用紙(裏)

幸市民館大規模改修工事後 リニューアルした幸市民館についてのアンケート

アンケート内容(項目) ※ 該当する項目に でご回答ください。

Q1 昭和 55 年 7 月に開館した幸市民館・図書館は、令和 8 年 9 月～令和 10 年 3 月末まで大規模改修工事(その間休館)を行い、令和 10 年 4 月に指定管理者による運営でリニューアルオープン予定です。

あなたは、その事をご存じですか？

<input type="checkbox"/>	知っている	<input type="checkbox"/>	知らない
--------------------------	-------	--------------------------	------

Q2 あなたは、新しくなった(リニューアル)市民館を、利用したいですか？

<input type="checkbox"/>	利用したい	<input type="checkbox"/>	利用したいとは思わない
--------------------------	-------	--------------------------	-------------

※ Q2「利用したい」に答えた方は Q3へ Q2「利用したいとは思わない」に答えた方は Q4へお進みください。

Q3 新しい市民館では、どんなことで利用したいですか？ <複数回答可>

<input type="checkbox"/>	乳幼児対象の子育関係のイベント・学級	<input type="checkbox"/>	青少年対象の仲間づくり(小学生)	<input type="checkbox"/>	青少年対象の仲間づくり(中・高生)
<input type="checkbox"/>	家庭教育に関する事業	<input type="checkbox"/>	シニアの社会参加支援に関する事業	<input type="checkbox"/>	高齢者に関する事業
<input type="checkbox"/>	世代間交流に関する事業	<input type="checkbox"/>	多文化・共生に関する事業	<input type="checkbox"/>	人権・平和に関する事業
<input type="checkbox"/>	身近に立ち寄り、フリースペース(自由に使える場所)の利用				
<input type="checkbox"/>	その他、具体的にどんなことをしたいかご記入ください。				

他に、次のような事業を実施してきています

- ・識字学習(外国人のにほんご教室)
- ・市民自主学級・市民自主企画事業
- ・市民エンパワーメント研修
- ・市民講師事業
- ・学習情報提供・学習相談事業
- ・地域学習・文化団体連携推進事業
- ・地域の寺子屋事業に関する研修など
- ・防災関連の事業(防災拠点・避難所開設・情報収集発信等)
- ・障がい者の青年教室
- ・ボランティア研修
- ・成人教室事業
- ・PTA 活動研修
- ・行政区・中学校区地域教育会議事業
- ・現代的課題学習事業
- ・市民コミュニティ推進事業

Q4 どのような理由で利用したいと思わないのですか？

<input type="checkbox"/>	市民館を知らない	<input type="checkbox"/>	忙しく時間がない	<input type="checkbox"/>	交通の便が悪い
<input type="checkbox"/>	その他、具体的な理由がありましたらご記入ください。				

ご協力ありがとうございました。

(4) 幸区内小学校児童へGIGA 端末によるアンケート

対象小学校・学年

御幸小学校 4・5・6年生

古川小学校 4・5・6年生

南加瀬小学校 4・5・6年生

幸市民館に関するアンケート

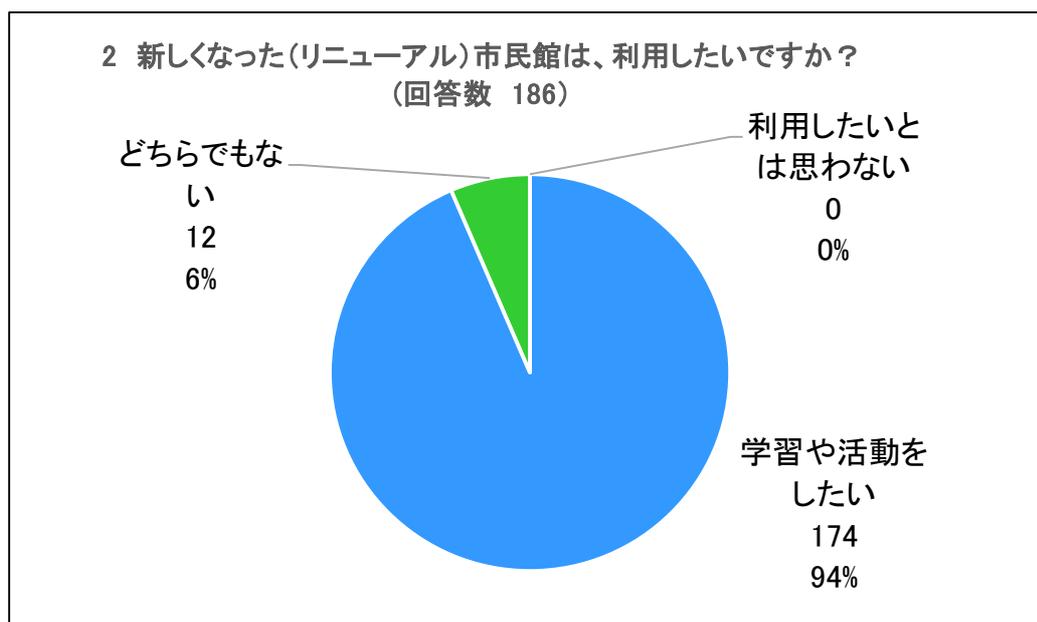
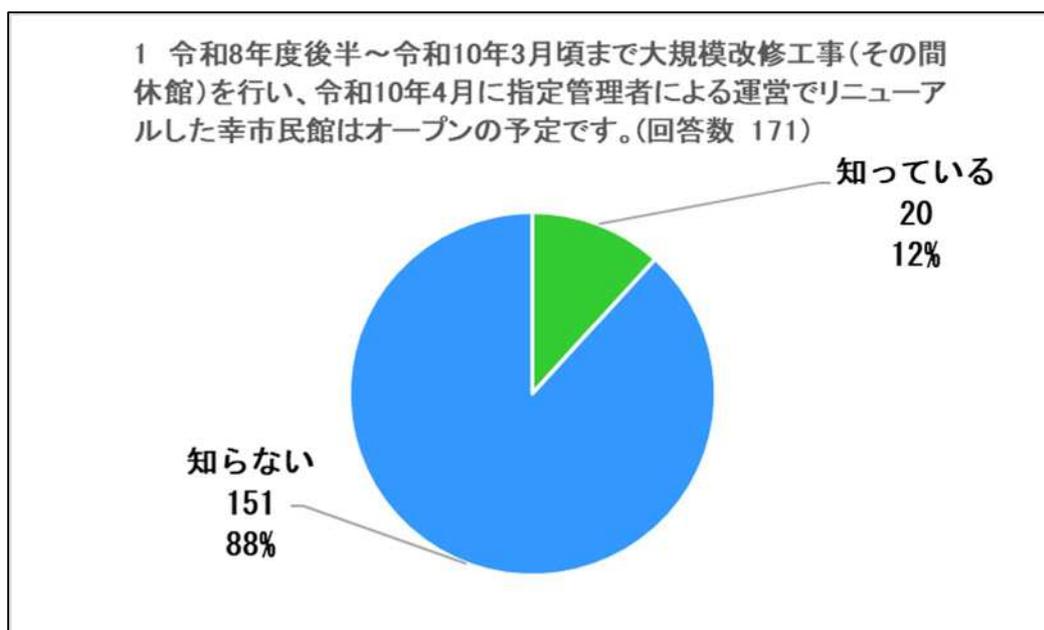
質問内容	YES	NO
①幸市民館を知っていますか		
②幸市民館を利用したことはありますか		
③これから幸市民館を利用しようと思いますか		
④市民館でどんなことがしたいですか・その他要望など		

5. 実践報告

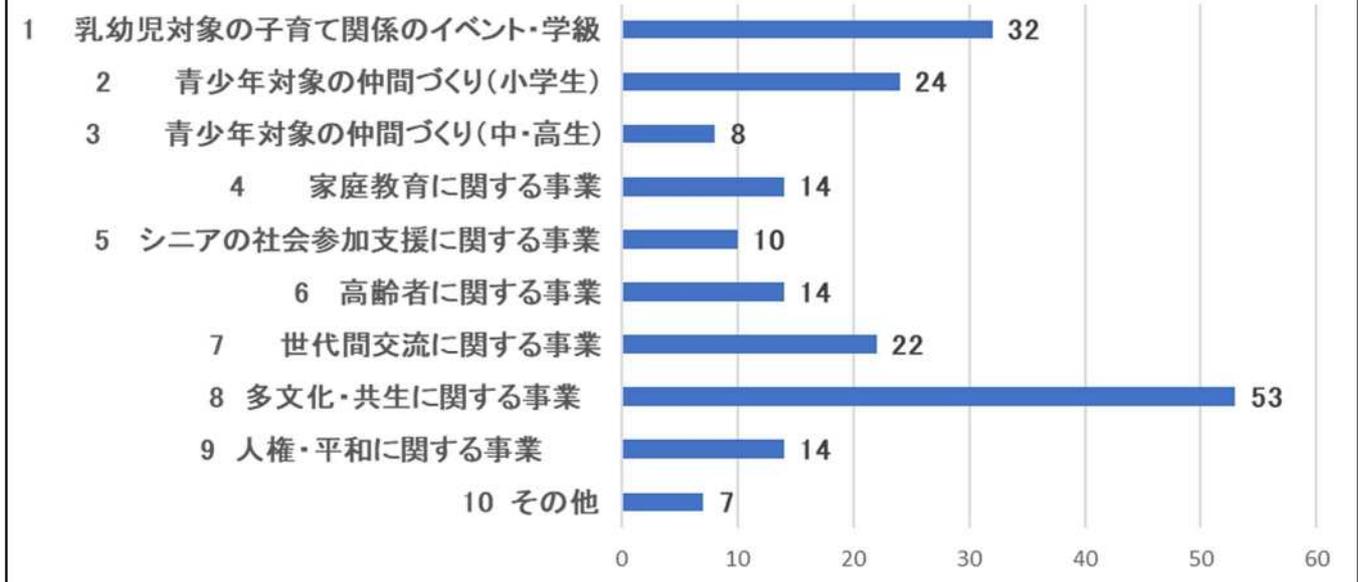
(1) 対面によるシールアンケート

対面によるシールアンケートは、幸市民館や日吉分館で開催される各種の行事・イベントに出向いて来場者に直接的に呼びかけてアンケートを実施した。模造紙に設問を書き、来場者が回答を該当する欄にそのシールを貼る。

①多文化フェスタ 令和7年(2025年)2月8日実施



3 新しい市民館でどんなことを行いたいですか？ また、イベント等に
参加したいですか？ <複数回答可> (回答数198)



10 その他(自由記述)

- ・身体を動かすこと

A委員からの実践報告

[実施日：3月8日、実施場所：幸市民館、参加行事：幸文化センター祭]

- 当日は多くの方が参加された。
- ご家族で来場された方の子どもに「シールを貼りませんか?」と声かけした。
- 改修・休館についてご存じない方が多く、アンケートと共に広報になったようだ。
- 皆様、市民館とりわけ図書館を大切に利用されている事が感じられた。休館中の対応について心配されていた。
- リニューアル後の市民館に期待されていて、楽しみと答えられた。
- 当日は館長他市民館の職員の方に協力していただき助かった。

B委員からの実践報告

[実施日：2月8日、実施場所：幸市民館、参加行事：多文化フェスタ]

[実施日：3月8・9日、実施場所：幸市民館、参加行事：幸文化センター祭]

[実施日：3月23日、実施場所：日吉分館、参加行事：さくらフェスタ日吉]

- 幸市民館の2つのイベントの対面のシールアンケートに参加して、スタッフの方と話を伺う機会(会場が使用できる)があり、今年、来年くらいまでは発表の機会があるが、幸市民館が使えなくなると、グループの方々も年齢が高くなってきて、気力もなくなり解散になってしまう、というお話しであった。それはとても寂しいことで市民館を運営する上ではそのような意見が出されるのは良くないことだと思う。
- もちろん、工事期間中に使える会場を示され、それぞれのグループが予約するという事にな

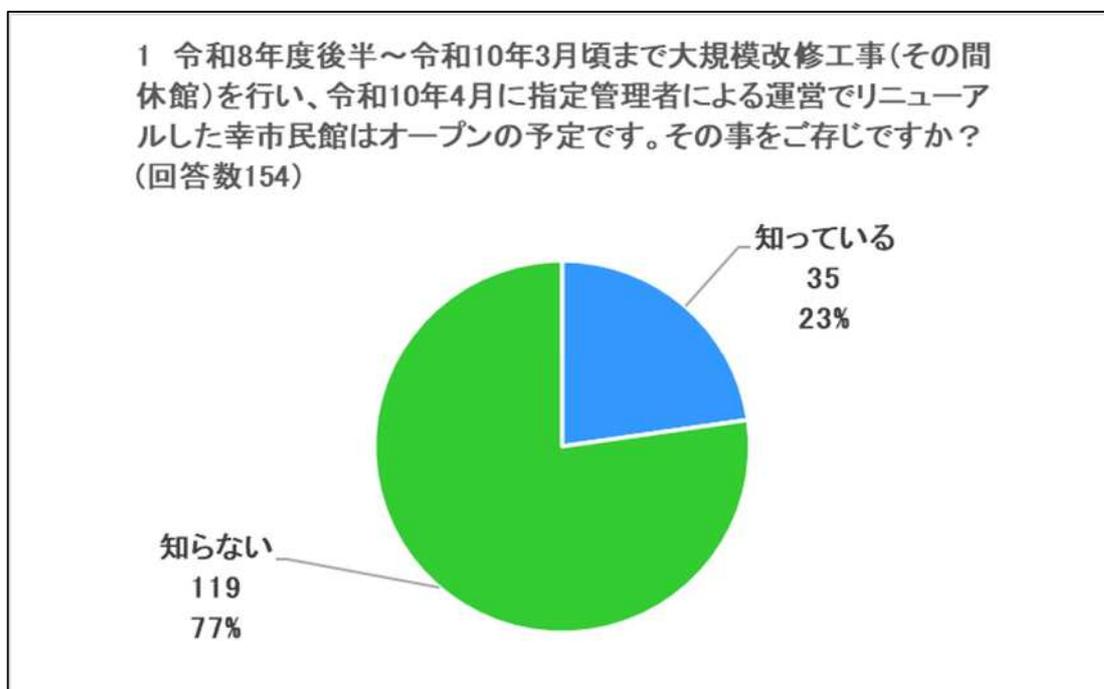
るが、お話しを伺った方々は、代替えのお部屋の情報提供をされることを知らないようであった。

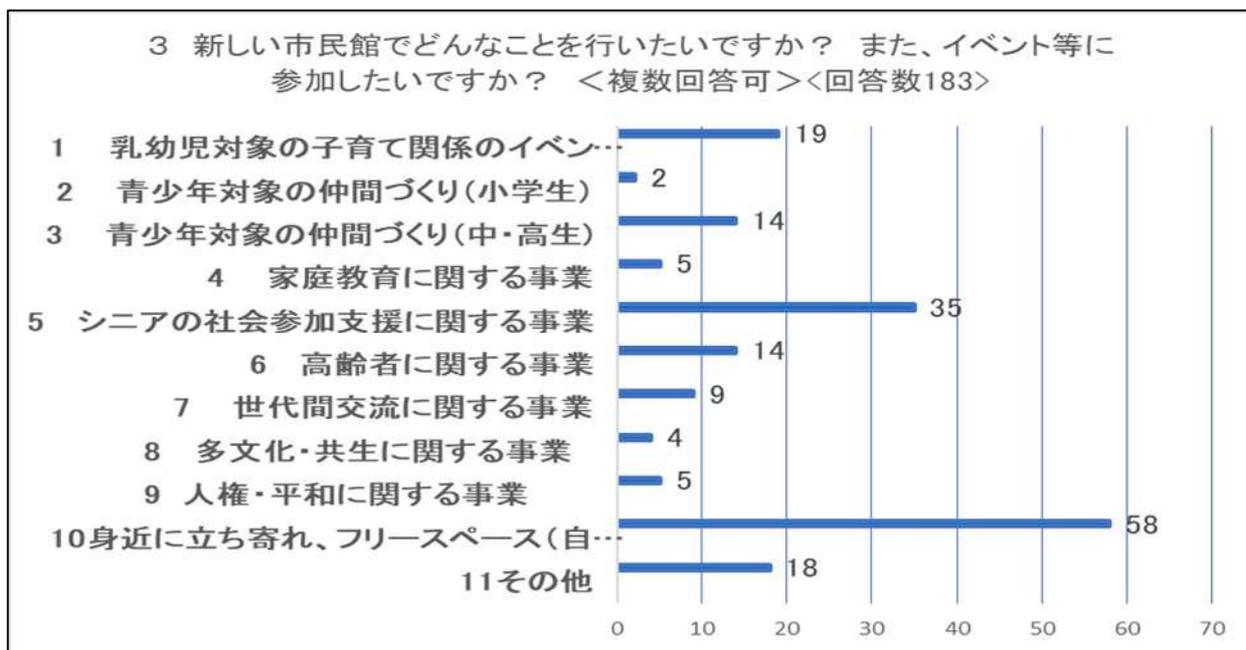
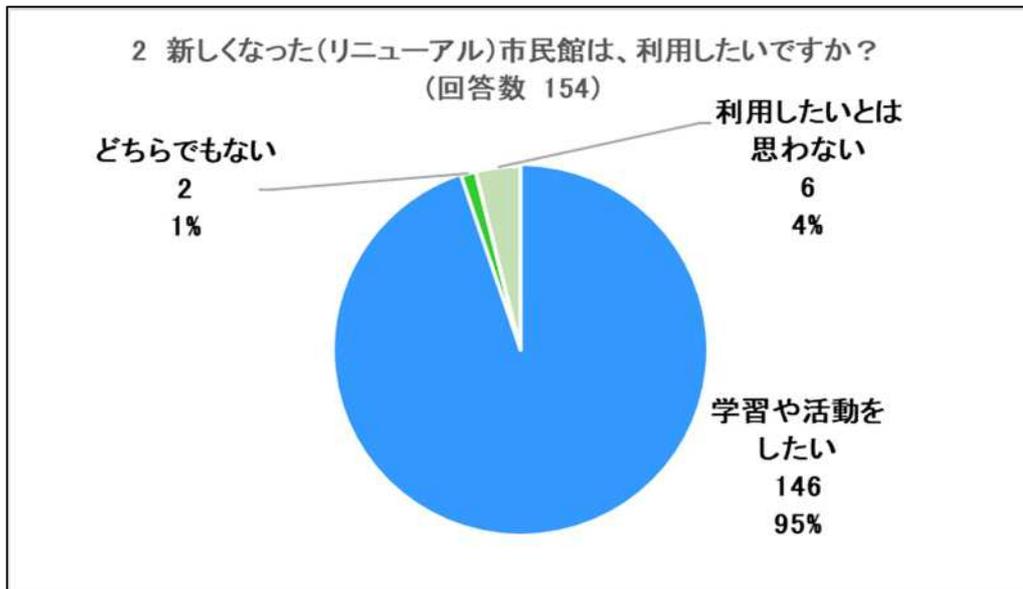
○代表者に伝えているのかもしれないが、こちらに関しても周知徹底されていない。どなたにでも分かるような情報提供が必要であると感じた。

○常にご利用の方々も知らないのならば、一般の区民は全く知らないのだろうと思う。市としても広報をしているが、いろいろな方法でもっと広報を行わなければならないと感じた。

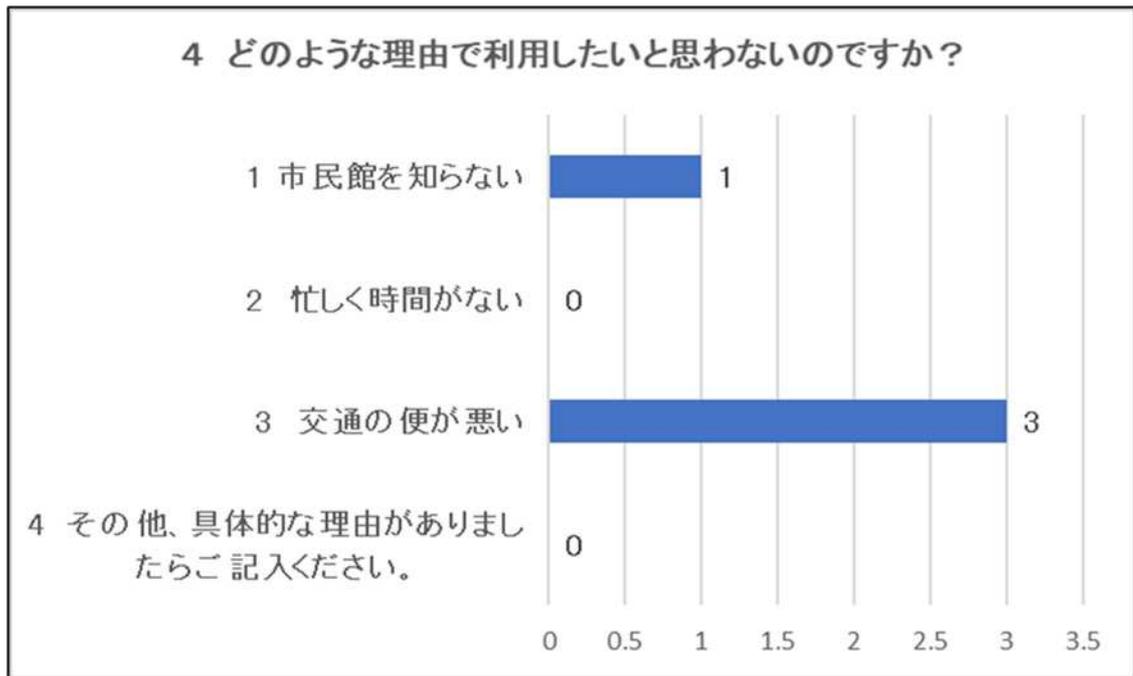
○日吉分館のさくらフェスタ日吉は地域での大きな共催事業で、出演者・参加者も楽しみにしている方が多く、シールアンケートにも積極的に参加してくれていた。ただし、幸市民館の工事での休館については、リニューアルすることは良いことであるとの回答が多かった。指定管理者制度導入に関しては一部の方が、どのように変わってしまうか心配されていた。

②幸文化センター祭 令和7年(2025年)3月8.9日実施

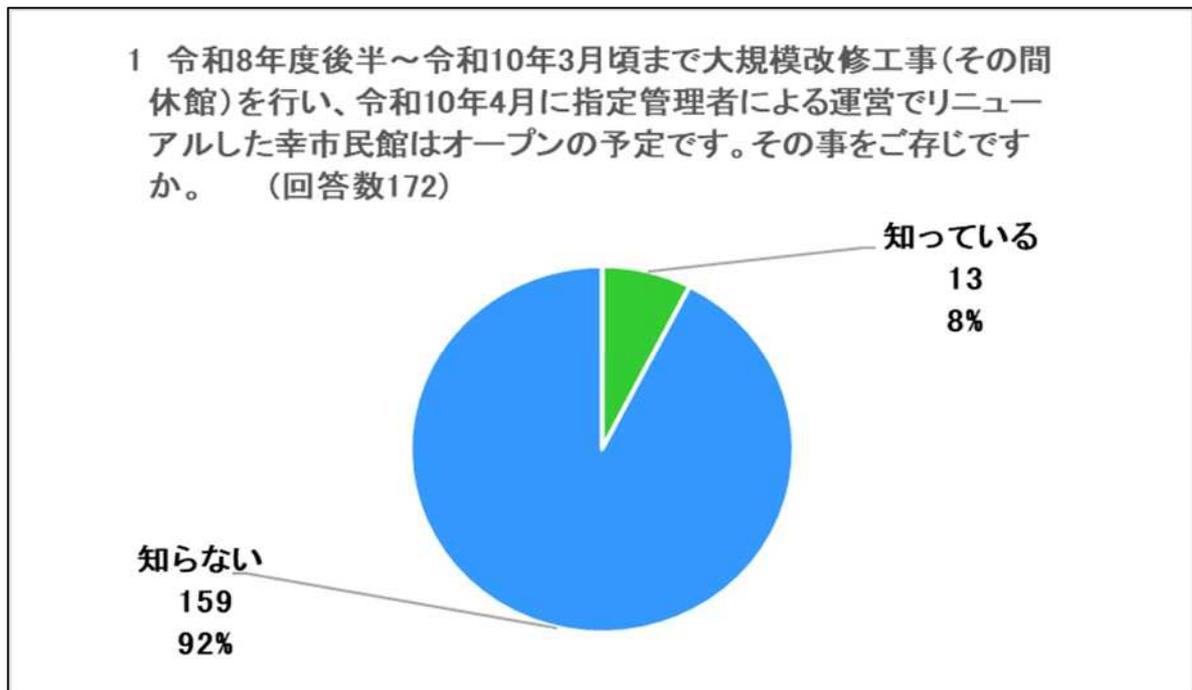


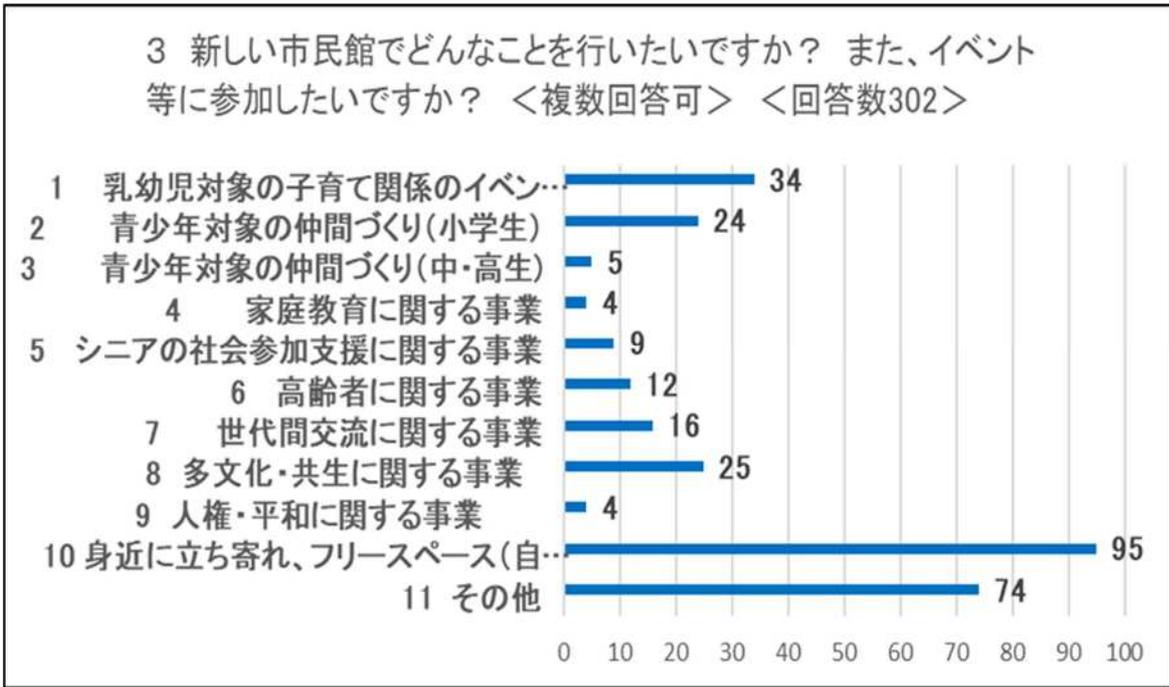
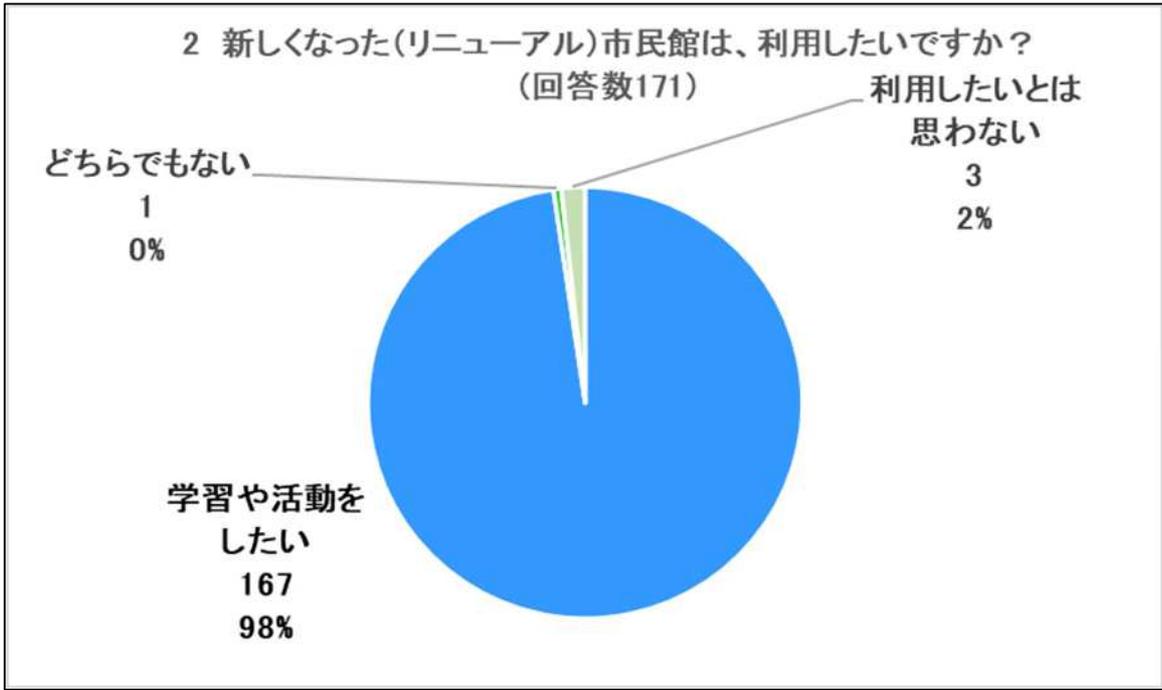


11 その他(自由記述)			
・シャンソン			
・文化センター祭りのような催し物			
・小学生以上のこどもだけのお泊り会			
・音楽室使用利用料金高い			
・昆虫について調べたい		2	
・幸文化センター祭り			
・区民祭をもっと充実させて欲しい			
・アルコール希望			
・大人も子供も楽しめるイベント			
・図書館利用		4	
・何をやっているのかわからないー入り口で分かるようにして			
・福祉関係・農業関係・保険関係の充実			
・疲れた時に一休みできるスペースが欲しい			
・図書館のスペースが少ない			



③さくらフェスタ日吉 令和7年（2025年）3月23日実施



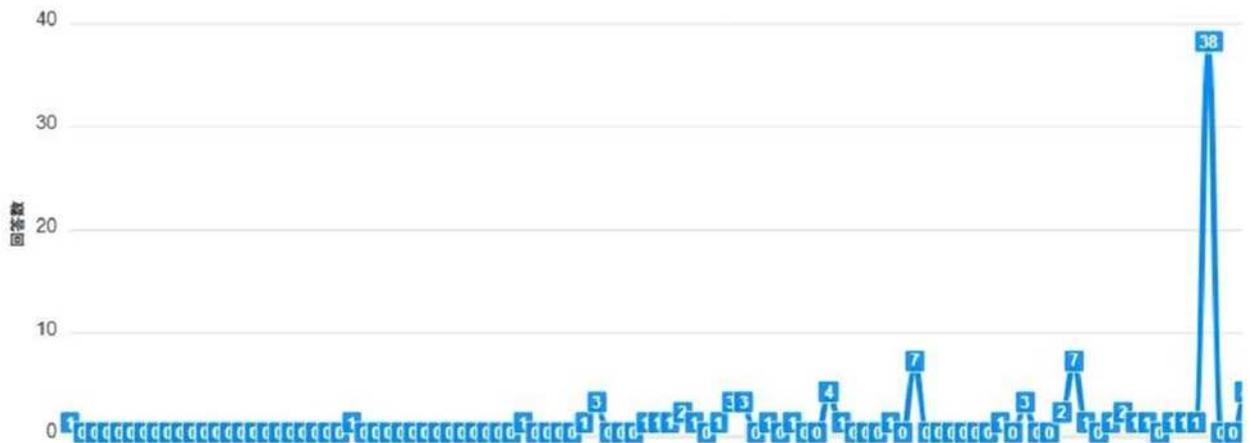


(2) 二次元バーコードによるアンケート

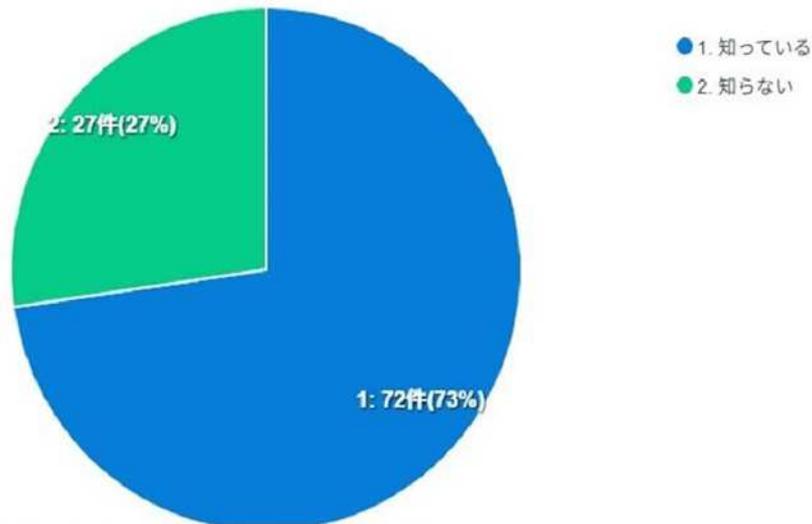
二次元バーコードによるアンケートの実践では、幸市民館だより令和7年4月号に呼びかけ記事を掲載し、その記事の中に二次元バーコードを載せて回答をいただくようにした。併せて委員の所属団体へのアンケート実施。また、幸市民館入口の玄関ロビーの一角に二次元バーコードを大きくポスターで掲示して来館者に回答いただいた。その結果に基づいて報告する。

幸市民館大規模改修工事後 リニューアルした幸市民館に関するアンケート（専門部会）

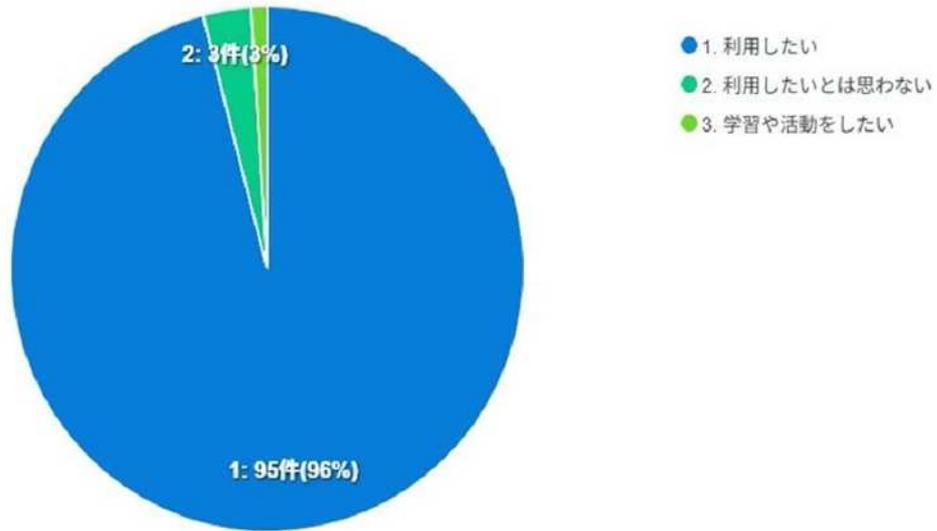
回答数推移



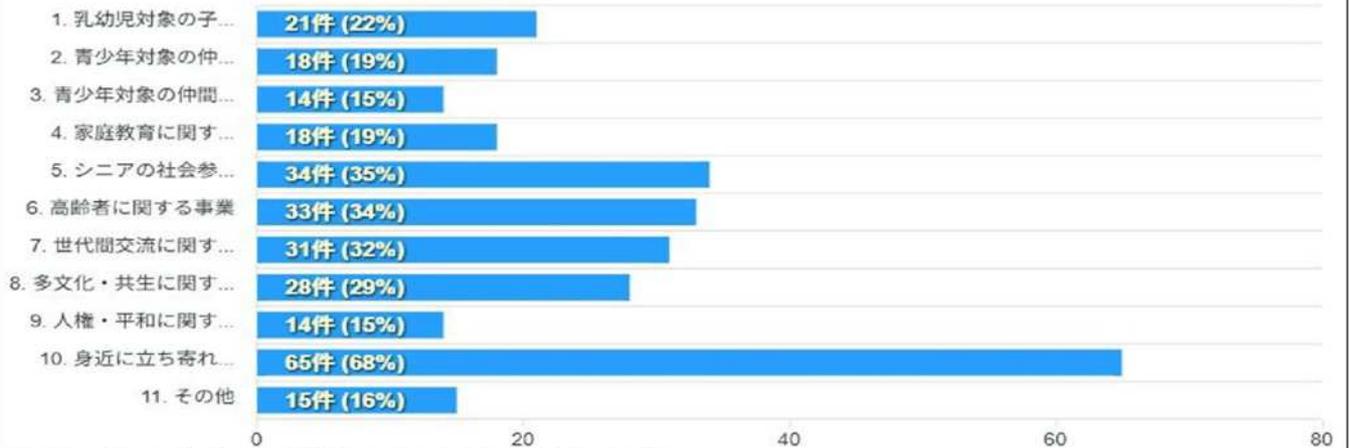
昭和55年7月に開館した幸市民館・図書館は、令和8年度後半～令和10年3月頃まで大規模改修工事（その間閉館）を行い、令和10年4月に指定管理者による運営でリニューアルオープンの予定です。あなたは、その事をご存じですか？



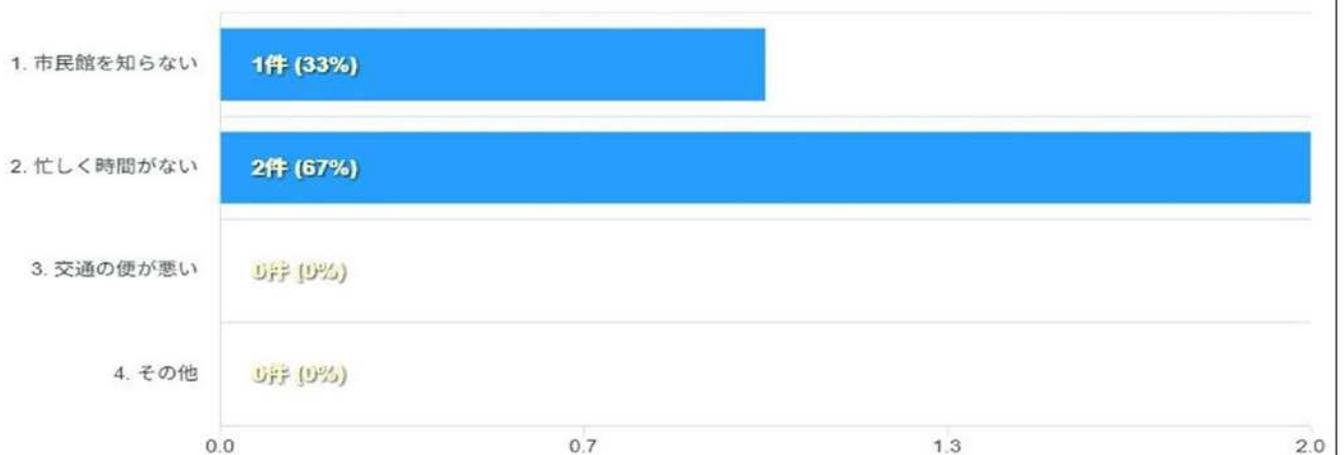
新しくなった（リニューアル）市民館は、利用したいですか？



新しい市民館でどんなことを行いたいですか？ また、イベント等に参加したいですか？ <複数回答可>



どのような理由で利用したいと思わないのですか？（複数選択可）



D 委員からの実践報告

- 新しい市民館に関して、期待どおり「利用したい」が大半だったが、「利用したいとは思わない」についてはその理由の課題出しが重要になってくると思われる。
- 新しい市民館を利用したいという回答者の年代によって行ないたい事業は選ばれると思う。今回は、乳幼児に関わる方から高齢者まで幅広く回答いただけたように推察する。結果的に予想どおり自由に使えるフリースペースに期待する方が多かったことがうかがわれる。
- 新しい市民館を利用したいかという自由記述欄では、様々な要望があり、改修後の事業展開につなげることができるとよいと思う。
- 二次元バーコードによるアンケートでは幸市民館から発信したにもかかわらず、幸市民館が改修工事により使用できないことが意外と知られていないことがわかった。ただ今回のアンケート調査によって改修工事について知ってもらえたのではないかと考え、意義あるアンケート実践であったと思う。また、新しくなった市民館は利用したいという方が大多数であったので、利用については期待している方が多いということが確認できた。
- 今後の利用については回答者の年代や活動の関わり方によりそれぞれの特徴が出ていて、かつ満遍なく選ばれていたように思う。フリースペースとしての使用が想定どおり一番多かったのは納得のいくところで、ぜひ実現できるように進めていきたいと思う。

E 委員からの実践報告

- 市民館改修工事をする事を知らない人がどのアンケートでも7割以上をしめており、認知度の低さを感じる。
- サークル単位で周知活動をする事を提案する。子育て世代のサークルであれば、「おこさまっぷさいわい」に掲載されているサークルや地域ケア推進課がそれに伴う会議をするときに伝えてもらったり、高齢者のサークルであれば、社会福祉協議会に協力を仰いだり、多世代に対しての周知であれば、こども文化センターの利用者やサークル活動をしているところに伝えてもらったりと他部署にも協力してもらうことが効果的と考える。また、市政だよりへの掲載、鹿島田駅前の掲示板、SDC（ソーシャルデザインセンター）を活用するなどが考えられる。
- 利用目的に「身近に立ち寄れ、フリースペースの利用」という意見もあった。例えば、三井のツインタワーのエントランスのように机イスがフリーで使える空間なのか、鹿島田駅前のサウザンドシティのドトール前のように人工芝を敷いてくつろげるスペースなのか、お子さんが入れるサイズの電車の遊具などオブジェにもなるし遊具にもなるものを設置する空間なのかなど、フリースペース案とそれに伴う市民の意見を募ると、市民の方も自分事として考えてもらえるかもしれないと思った。
- 今回のアンケート結果から、幸市民館および図書館の改修計画について、一定数の市民には認知されている一方で、依然として情報の周知が不足している層が存在することが明らかになった。「令和10年4月にリニューアルオープン予定」の情報について「知っている」と答えた人が72件、「知らない」が27件という結果は、約3割が知らなかったことを示しており、広報手段の工夫や多様化が引き続き求められる。

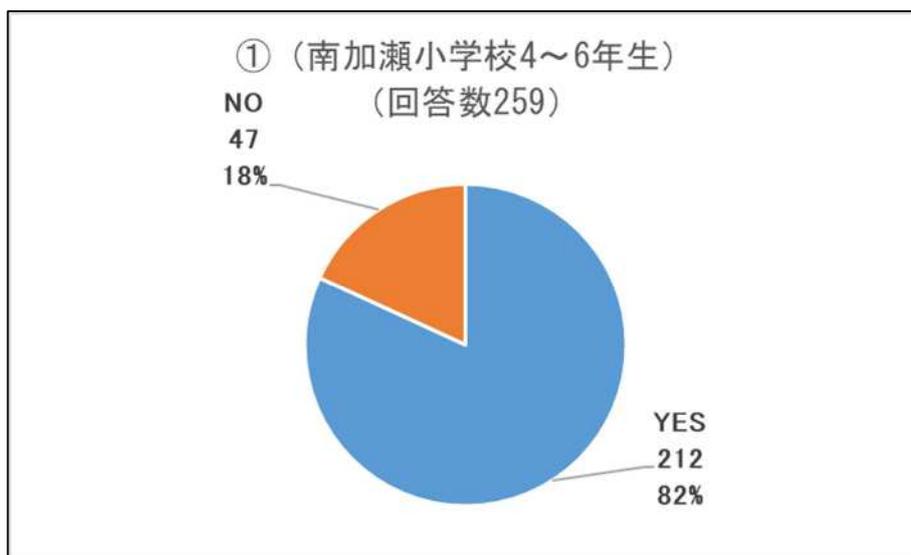
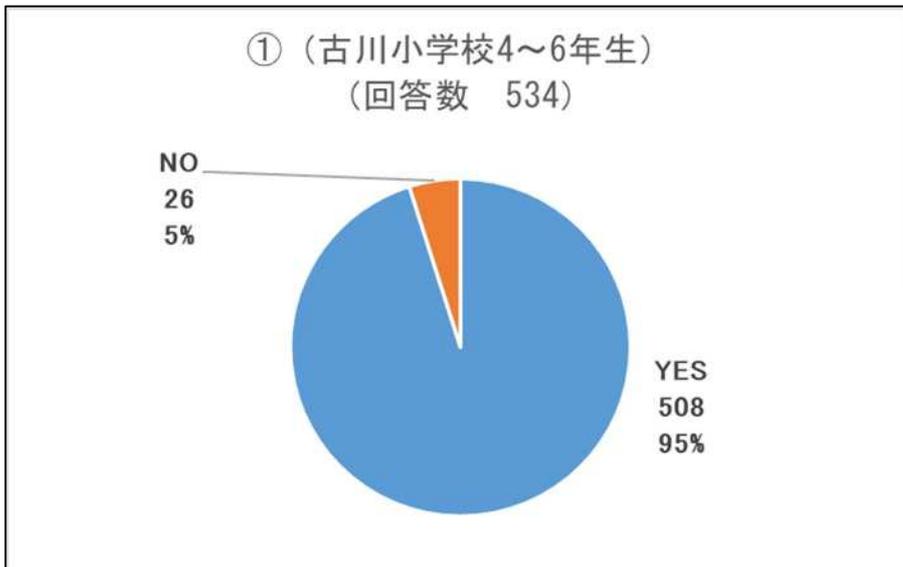
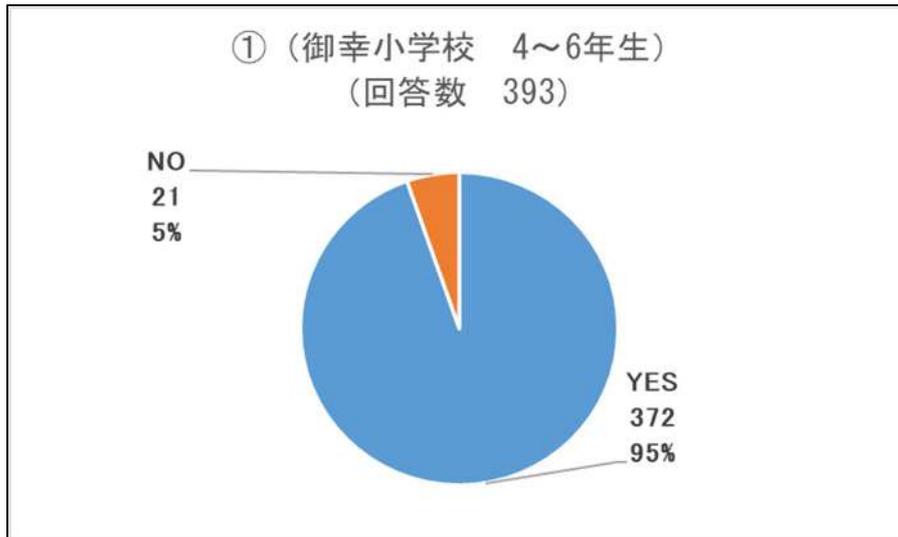
- 「新しい市民館を利用したいか」との問いに対して、ほとんどの回答者（95件）が「利用したい」と答えている点から、改修後の施設利用に対する市民の期待の高さがうかがえる。利用したくない理由としては、「市民館を知らない」「忙しく時間がない」といったものがあり、施設自体の存在が知られていない層や、時間的制約がある層へのアプローチ方法も検討課題である。
- 「新しい市民館でどんなことを行いたいか」の質問においては、「身近に立ち寄れるフリースペースの利用」が65件と最も多く、従来の“貸館”機能を超えて、自由に滞在できる居場所としての役割が強く求められていることが分かる。これは、基本理念である「学びといこいの場」とも合致しており、“気軽にふらっと立ち寄れるサードプレイス”という方向性の妥当性を裏付ける結果でもある。
- 「シニアの社会参加支援に関する事業」（33件）や「世代間交流」（31件）、「多文化・共生に関する事業」（28件）など、多様な属性の市民が交わる事業への関心も高く、改修後の事業設計においては、単独の年代や属性に特化した事業だけでなく、世代や文化を超えてつながるプログラムの開発が求められる。特に、子育てや青少年向け事業への期待も一定数見られ、子ども・若者世代が自然と市民館に関わる機会を意図的に創出することが、将来の利用促進や地域定着につながるだろう。
- 注目すべきは、アンケート実施自体が、改修計画の広報活動としても機能していた点である。多文化フェスタなどのイベントと連動させる形でアンケートを展開したことにより、参加者が市民館の現状や今後について自然な形で触れる機会となった。特に、子どもたちを対象にGIGA端末を用いたデジタルアンケートを実施するなど、多様な層へのリーチが戦略的に図られていた点は評価できる。アンケートの設問数を抑えたり、シール貼り方式を導入したりと、回答しやすさへの配慮もなされており、市民参加を促す工夫が随所に見られた。
- 今後は、今回のアンケート結果をもとに、実際に事業へどう反映させるかが重要である。例えば、寄せられた希望に応じたモデル事業の実施を通じて、さらなる市民の声の深掘りや、参加意欲の喚起を目指すことができる。加えて、改修中の代替機能の提供や情報発信も計画的に進め、市民との継続的な関係性を保ち続けることが、リニューアル後の円滑な運営への布石となるだろう。
- 最後に、市民館が「親しみを持たれる場」「また訪れたくなる場」となるには、施設整備だけでなく、運営を担う専門職の質や市民参加の保証といった“人”にかかわる要素も大きい。今後の検討においては、こうした人的・関係的資源の継承・強化にも目を向ける必要があると考える。

（3）幸区内小学校児童へのアンケート

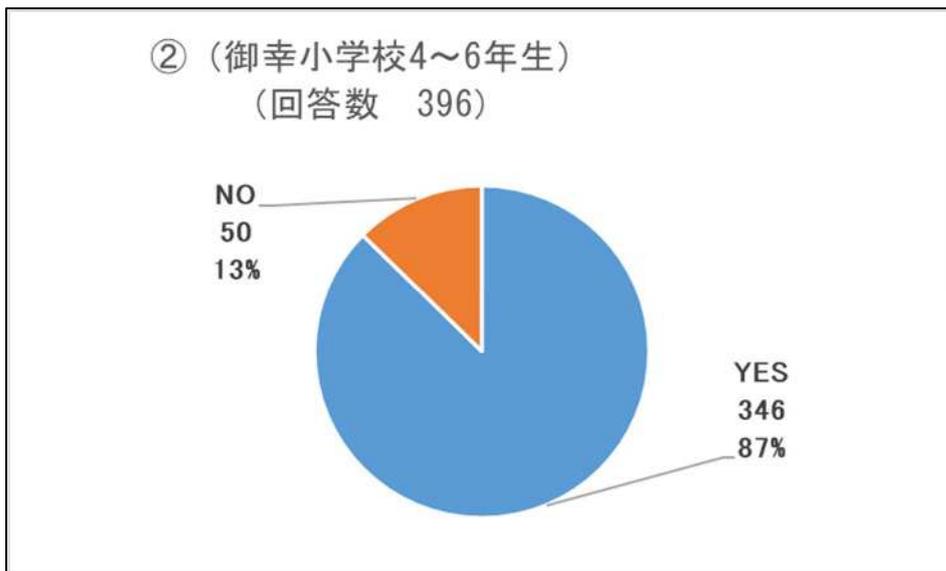
今回実施した幸区内小学校児童へのアンケートは、幸区内の小学校3校（御幸小学校・古川小学校・南加瀬小学校）の4～6年生の児童を対象にGIGA端末による「幸市民館に関するアンケート」を実施した。

各学校の結果及び3校合計のグラフを次に示す。

①幸市民館を知っていますか



②幸市民館を利用したことはありますか



- ・区民祭
- ・イベント
- ・図書館
- ・発表会
- ・連合音楽会
- ・多文化祭

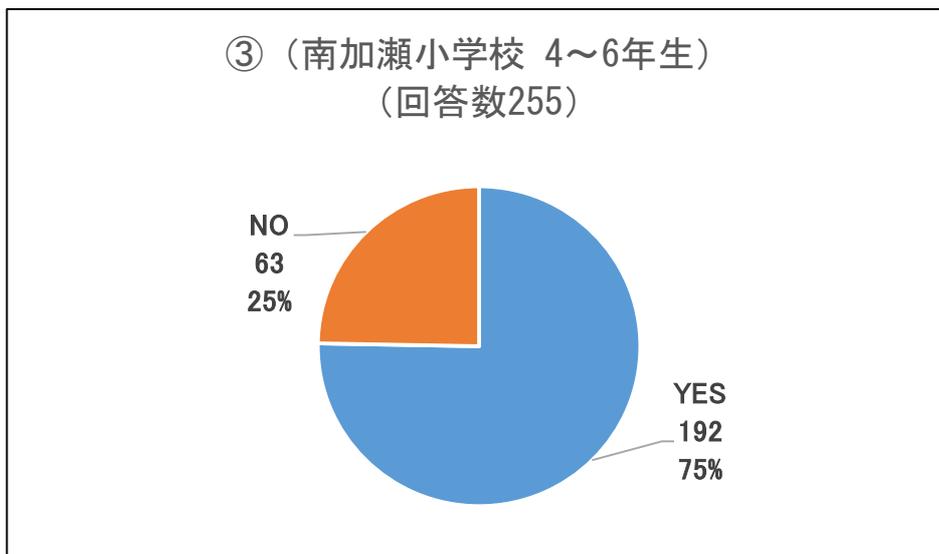
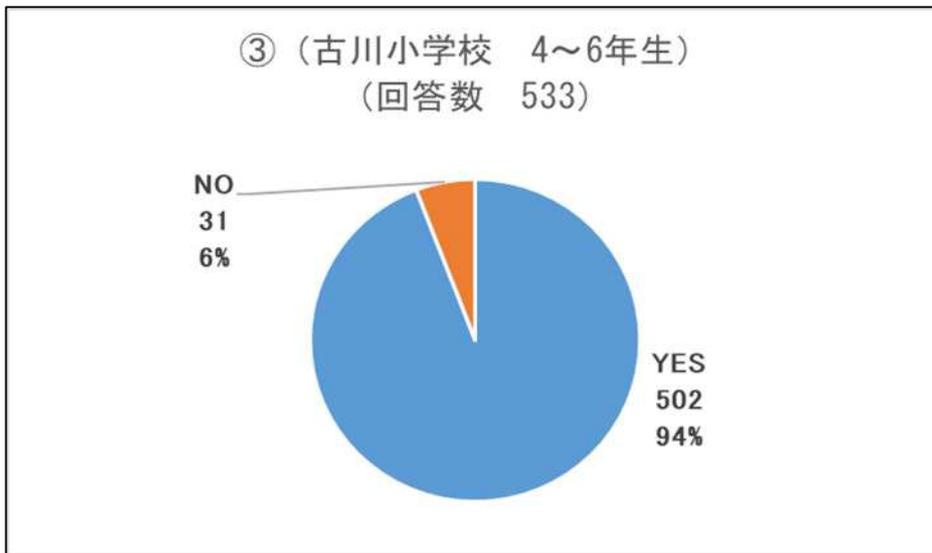
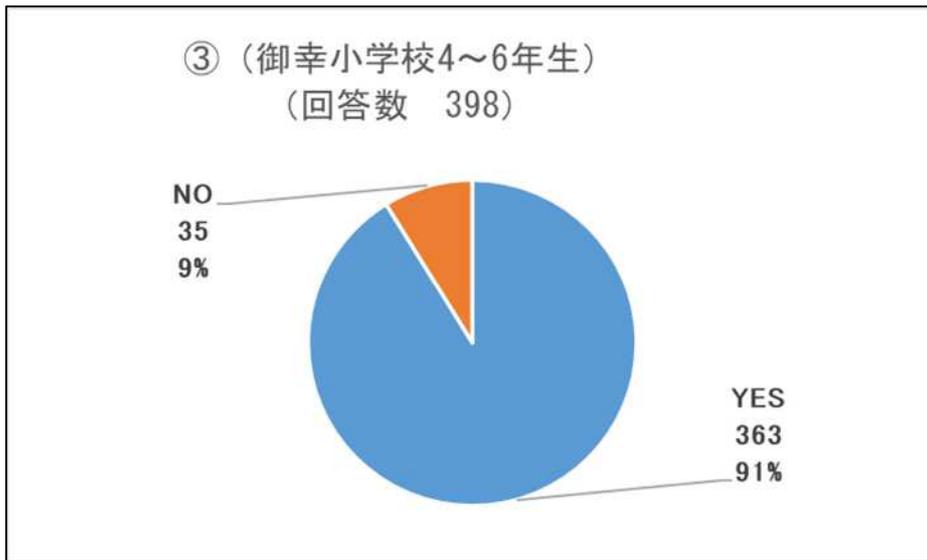


- ・イベント
- ・図書館
- ・区民祭
- ・連合音楽会

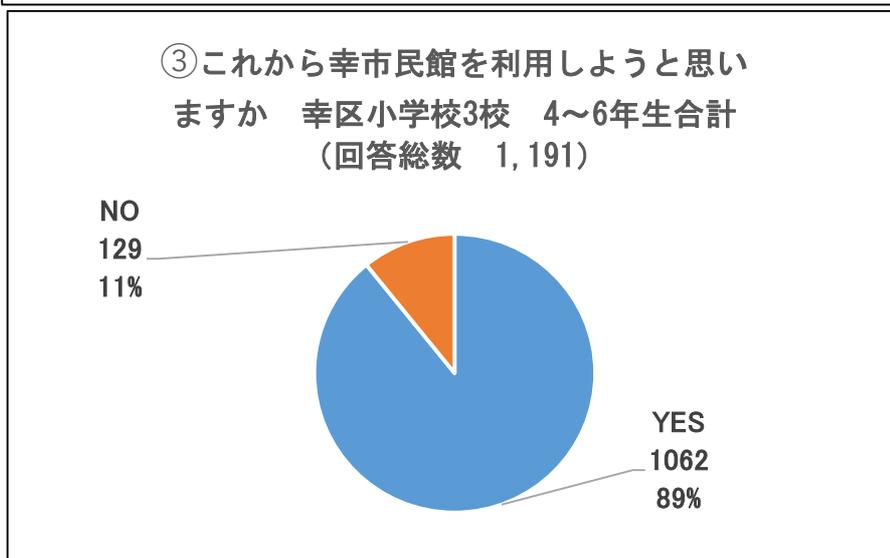
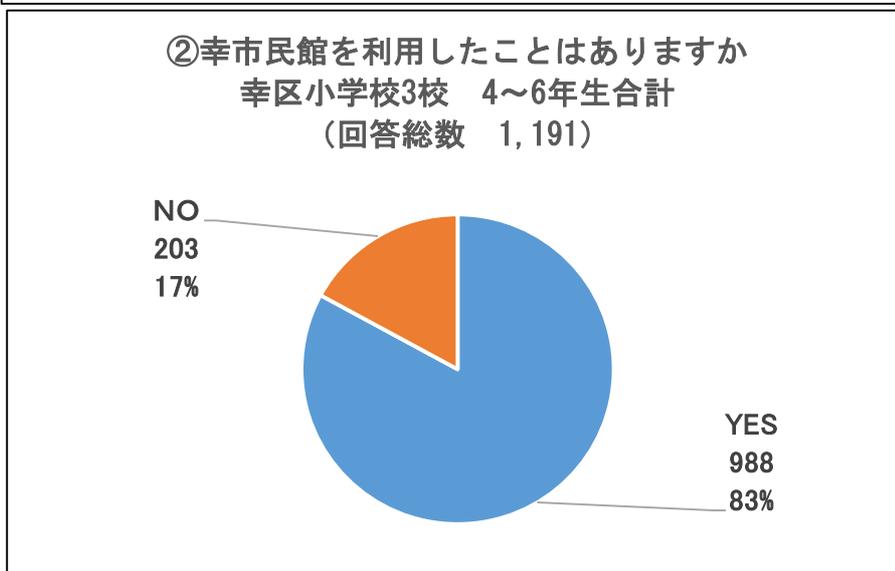
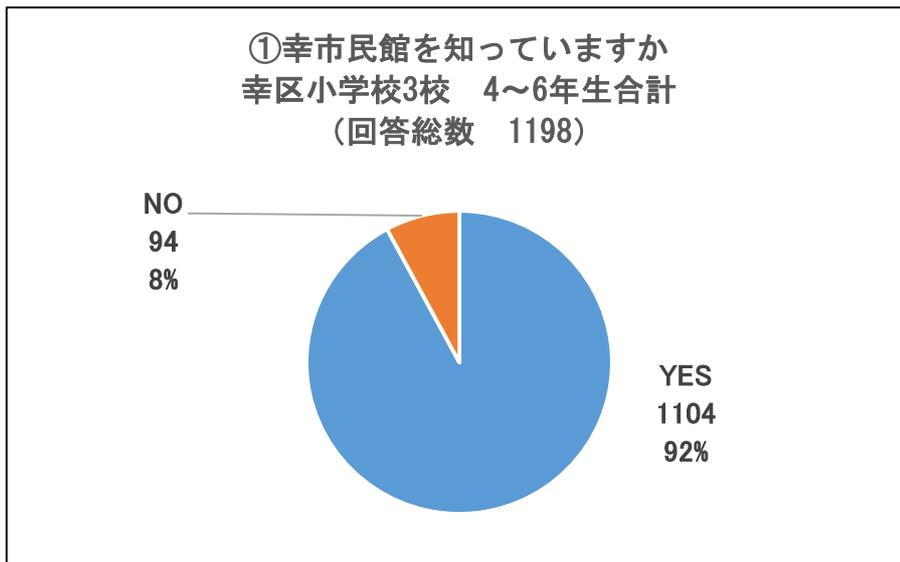


- ・区民祭
- ・イベント
- ・図書館
- ・発表会など

③これから幸市民館を利用しようと思いますか



3校総合計



④市民館でどんなことがしたいですか・その他要望など

- ・区民祭や多文化フェスタにはまた行きたい
- ・図書館をよく利用している
- ・スケボーができるようにしてほしい
- ・御幸公園のようにバスケットゴールを置いてほしい
- ・こども文化センターみたいに卓球台があるといい
- ・土日は習い事で行けないので平日の午後にイベントがあると参加できる
- ・区民祭が楽しくていい
- ・子ども向けのイベントをたくさん開いてほしい
- ・図書館の本を増やしてほしい
- ・スケボーが出来る場所にしてほしい
- ・ダンス大会をやってほしい
- ・カードゲーム大会をやってほしい

F 委員からの実践報告

○幸市民館を知っているかという設問では、どの学年も9割は「YES」と答えており、学年が進むにつれその割合は高くなっている。隔年で小学校4年生の連合音楽会を開催していることもあり市民館の認知度は高いことがわかる。

○幸市民館を利用したことがあるかという設問では、8割程度の子どもが「YES」と答えている。少人数のイベントに参加している子どももいるが大多数は区民祭や多文化フェスタなど大きなイベントに参加しているようだ。イベント以外では図書館を利用している子どもが多いことも分かった。また、市民館から遠い南加瀬小学校の子ども達よりも、市民館に近い古川小学校、御幸小学校の子ども達の利用頻度が高いこともわかった。

○これから市民館を利用しようと思いますかという設問では、9割近くの子供達達が「YES」と答えている。市民館に対しての子供達達の関心は決して薄いわけではない。今後も子供達達が利用したくなる場所であり続けてほしい。

○市民館でどんなことがしたいですか、その他の要望などという設問では、様々な意見が出された。イベントではカードゲーム大会やダンスの大会、土・日は習い事があるので平日の午後にも行なってほしいなどの意見があった。ハード面ではバスケットゴールや卓球台の設置やスケートボードのできる場所にしてほしいなどの意見があった。

6. 研究の成果

今回の研究の成果を以下では3つのアンケート調査（「対面によるシールアンケート」「二次元バーコードによるアンケート」「幸区内小学校児童へのアンケート」）を通して見えてきた市民館を取り巻く現状と運営のあり方をめぐって9つの論点から総括的に見ていくことにする。

(1) 参加型の調査活動の意義

全体的に見て言えることは、今回の専門部会における検討および市民アンケートの実施は、今後の市民館・図書館の改修と指定管理者制度導入を見据えた、市民参加型の運営方針策定に向けた重要な研究的取り組みであったということである。

(2) 広報戦略の再構築の必要性

研究の成果として挙げられる点は、市民館の存在意義や役割について、市民の期待値と現状との間にあるギャップを可視化できた点である。特に、改修計画そのものの周知度が必ずしも高くない現状が明らかとなり、広報戦略の再構築の必要性をデータとして示せた意義は大きい。

(3) 多機能型公共施設への転換

「利用意欲の高さ」と「自由な利用空間への期待」が顕在化した点も見逃せない。アンケートでは、リニューアル後に市民館を「利用したい」と答えた人が多数を占め、中でも「自由に立ち寄れるスペース」へのニーズが最も高かった。これは従来の“貸館”中心の運用から、“交流・滞在”を重視した多機能型公共施設への転換が求められていることを意味しており、今後の施設設計や事業企画に活用できる知見である。

(4) 地域の多様性（ダイバーシティ）への視座

多世代・多文化にわたる交流の場として市民館を再定義する契機となったことも成果の一つである。アンケート結果では、シニア層の社会参加支援や世代間交流、多文化共生といったテーマへの関心が高く、市民館が単なる「学びの場」ととどまらず、学びを通して「地域の多様性を受け入れ、つなぐ場」としての期待が広がっていることが浮き彫りとなった。これは、今後の社会教育施設としての市民館の方向性に対し、新たな視座を与えるものである。

(5) 市民として子ども主体の尊重

子どもが市民として意見をもち、表明できる主体であることを意識した調査設計がなされた。GIGA端末を活用したアンケート参加の提案や子どもが答えやすい形式の導入（シール貼り方式など）は、市民参加の年齢的ボーダー（境界）を取り払い、真の意味での「地域全体の声」を集める手法の有効性を示している。これは社会教育の実践においても今後継承すべきアプローチである。川崎市子どもの権利条例と併せて考えたい。

(6) 調査方法と広報活動との連動性

今回のアンケートは単なる情報収集にとどまらず、PR効果や当事者意識の喚起という点でも一定の成果を上げた。回答の機会を通して市民が市民館施設の改修や今後の運営方針に関心を持つ契機となり、今後の広報活動との連動性の高さを裏付けた。これは、調査と広報を一体的に考えるという新たな公共施設運営の視点として、他の施設でも活用可能なモデルとなるのではないか。

(7) 市民参加による施設経営の価値

今回の研究の成果は、改修工事中・移行期間中における市民参加のあり方や、移行後の施設運営の方向性にも波及効果を持つ。アンケートを通じて得られた市民の関心や課題意識は、単年度事業の参考にとどまらず、持続可能な市民館運営に向けた中長期的な方針形成の基盤となり得る。特に今後予定されるモデル事業の設計や、令和8年度以降の社会教育振興事業への提案形成に活用できる貴重な一次資料として、実務的な価値も高い。

(8) 市民との協働・共生に基づく施設運営の確認

今回の専門部会の取り組みは、「市民の声を可視化し、次代の市民館運営に反映する」という目的を果たすとともに、市民や地域住民との協働・共生に基づいた公共施設のあり方を探る実践的研究として、高い意義と成果を持つものであったと思われる。

(9) 学校と地域との連携の努力の成果

最後に、各委員が思っている以上に子ども達の市民館に対する認知度は高かった点を挙げたい。また、子ども達は区民祭や多文化フェスタなどの大規模イベントに参加していた。今後も市民館を利用したいという子どもも多い、さらに魅力あるイベントを行ったり、施設の充実を図っていく必要性を感じた。このことはこれまで幸市民館が親子向け・青少年向けの事業に取り組んできた蓄積を反映するものであるとともに、幸区内小学校の児童に対しても市民館を周知させてきた賜物でもあろう。今後とも市民館と学校との連携・協力を継続的に維持していく必要がある。

7. 今後の課題・展望

(1) 市民館をめぐる残された諸課題

今期の専門部会では、本市の社会教育施設再編計画にしたがって、幸市民館がこれから大規模な改修工事に入り、施設のリニューアルを目指すとともに、新しい市民館に指定管理者制度を導入し、長年にわたって直営で取り組んできた管理体制が変更されることを契機に、市民に向けてアンケート調査を実施することになった。その調査の狙いは、幸市民館の現状の認知度（幸市民館がどれほど市民に認知されているのか）をはじめ、改修工事の周知度（改修工事期間が市民にどれだけ周知されているのか）と併せて、改修後リニューアルする幸市民館への期待度（新しくなる幸市民館に市民がどれくらい期待を持っているのか）などの点を探ることにあつた。その成果に関しては前章に記されたとおりである。この点を踏まえて、本章では市民館と市民とをつなぐために専門部会各委員の関心（口内を参照）に基づきながら、3つの観点から課題について考える。

【課題1：施設の利用について】

まず、施設の利用について、幸市民館が設置されてからすでに45年以上が経ち施設の老朽化がしだいに目立ち始め、この間は部分的な改修を重ねながら何とか使いこなしてきたといえるのではないだろうか。これから大がかりな施設の改修がなされ、リニューアルする市民館に対しては今まで

施設を利用してきた市民たちの期待は高まるばかりである。

実際に、本市の施設再編計画における「基本理念（コンセプト）」には、「多くの市民に愛され利用され続ける“学びといこいの場”」が掲げられていることから、この基本理念を実現していくために、「基本方針」に沿って「気軽にふらっと立ち寄れる“サードプレイス”」「多世代が集まり自由に過ごす“集いの場”」「市民や地域団体が集まり交流する“仲間づくりの場”」などに利用できる市民館になるはずであるからますます期待値は高まる。この点から、市民が施設の利用者と認められていることは了解できるが、果たして市民は単なる利用者・消費者として位置づくだけでよいのだろうかという疑念がわいてくる。施設の利用を享受しながらも、地域の自治を担う主権者・生産者として捉え直していくという課題があるのではないか。市民館の取り組みに不満を言うだけの利用者、あるいは要求を出すだけの受動的市民にしておくことは本来の市民館の設立趣旨に反するであろう。社会教育施設として基本に立ち戻っての取り組みが必要である。

【委員から出された今後の課題】

- ・私たちはいつも市民館を利用しているから関心があるが、来たいとは思わない方は関心がないから興味もない。
- ・行事が終わるとさっさと帰る。ゆったりとしたスペースがない。ちょっとお弁当を食べようというフリースペースがないからとっとと家に帰る。つまり、来ようと思うと何か魅力ない。

【課題２：施設の運営について】

これまで市民館の運営方針として大事にされてきた市民参加による施設運営を今後どう継承していくかという課題があるのではないか。市民の意見をすくい上げて市民館の運営に地域住民の意思を反映させていく仕組み（専門部会など）はこれからも維持されていくということであるが、社会教育施設が有する市民館と市民をつなぐパイプ役としての機能が発揮していくかどうかは今のところ不確かなところである。仕組みを形式的に残すだけでは意味がない。その仕組みが実質化するためにこれまで以上に市民参加を促進するための手立てや工夫を見出していかなければならない。施設の運営を果たして職員の企画に委ねるだけで良いのかどうかをこれまでの市民館の蓄積と市民の経験に基づいて吟味してみることも必要であるかもしれない。市民から出されるアイデアや提言をしっかりと受け止めるだけの市民館・職員の体制づくりが求められるだろう。

【委員から出された今後の課題】

- ・よりいろいろな方に来てもらうには、ソフト的な何か興味を持つ企画をしていく必要がある。それぞれの年齢に合わせた企画する必要がある。
- ・①子ども向けのイベントがある ②遊び場がある ③学び、つながり、地域づくりが出来る場 ④ちょっと一休みしたい等 ふらっと寄ってみたいくなる、親しみやすく、魅力的な場になるような工夫が必要だと思う。
- ・市民館と日吉分館は、兄弟親戚のようなもの、人々が気軽に行き来しやすい、特別なバス便があってもいいかなと思う。
- ・利用目的に「身近に立ち寄れ、フリースペースの利用」という意見もあった。例えば、三井のツインタワーのエントランスのように机イスがフリーで使える空間なのか、鹿島田駅前のサウザ

ンドシティのドトール前のように人工芝を敷いてくつろげるスペースなのか、お子さんが入れるサイズの電車の遊具などオブジェにもなるし遊具にもなるものを設置する空間なのかなど、フリースペース案とそれに伴う市民の意見を募ると、市民の方も自分事として考えてもらえるかもしれないと思った。

【課題3：広報の工夫について】

今回の調査手法は画期的であったという評価が委員の中から出されている。今回の調査の狙いは市民からこちらが聞きたい情報を収集するだけではなかった。もちろん、市民の意識や状況を把握することは大事なことではある。それと同時に、専門部会が市民と交流することで専門部会自体の認知度を上げ、そのことで市民館の広報にもなる点に最大の効果と意義があったのである。そもそも「広報」とは、情報を一方的に大衆に流すことを指すのではない。情報を得る人との関係の構築にこそ要点がある。信頼できる人から安心できる情報を伝えられることで相手からの協力を調達することができる。インターネットや SNS など電子媒体の利便性が高まる時代にあつて、生身の人間を媒介とした伝達（口コミや人づてなど）のコミュニケーション機能を確認したいところである。しかし、そうは言っても、調査結果からは市民館の改修工事が市民に周知徹底しておらず、これまでの市民館の利用者・団体がその間にどこで活動を継続・維持していくことができるのかという点で懸念材料となっている。この点に関してはすでに市民館事務局でも対応すべく動き出しているが、当面は現在施設を利用している市民だけでも周知徹底させたい。その一つの方法として委員の中からは、例えば「サークル単位で周知活動する」といった意見が挙げられている。また、もう一つの方法は専門部会の各委員が日ごろの地域で築き上げたネットワーク（絆）やコネクション（人脈）の力を最大限に活用することではないだろうか。

【委員から出された今後の課題】

- ・知らせるのが重要かということで知らせた方が良く、リニューアルを知らせた方が良くのかな？少なくともリニューアル後に利用したいかの回答では知らない人でも知っている人でも、こんなに良くなるということ。90%以上出ているので、リニューアルしてこんなに良くなるんだということを知らせるのが重要と思う。
- ・毎回の課題ではあるが、どう知らせるかが課題。これまでも SNS の活用が出されていたが、「具体的にどうなのか市民館では？」区役所のインスタもあるが見る機会が無い・習慣がないのか？
- ・周知すること。広報が問題。リニューアルして市民館に行きたくなることを伝え、来てもらうのが必要と思う。
- ・市政日より、市民館日より等、なるべく多くの方々に読んでもらうよう、配布先等の工夫が必要に感じた。
- ・市民館改修工事することを知らない人がどのアンケートも7割以上をしめており、周知度の低さを感じる。サークル単位で周知活動することを提案する。子育て世代のサークルであれば、「おこさまっぷさいわい」に掲載されているサークルや地域ケア推進課がそれに伴う会議をするときに伝えてもらったり、高齢者のサークルであれば、社会福祉協議会に協力を仰いだり、多世代に対しての周知であれば、こども文化センターの利用者やサークル活動しているところに伝え

てもらったりと他部署にも協力してもらうことが効果的と考える。また、市政だよりへの掲載、鹿島田駅前の掲示板、SDC（ソーシャルデザインセンター）を活用するなどが考えられる。

（２）今後の市民館の発展に向けた展望

長年にわたって幸市民館では市民とのつながりづくりが懸案事項とされてきた。もう十分に市民の中に市民館が浸透しているのではないか。あまり欲張らない方が良いのではないかなどと言われることもある。市民館は毎年、市民に向けて予算の範囲内で多彩な事業を企画し市民に継続的に提供してきていることは確かだ。それでも近年に見られる事業予算や人件費の削減、専門職員の未配置などの影響を受けながら、事業規模は縮減ぎみであり、市民の事業に対する「関心」（応募状況等）が少なくなってきた傾向もややうかがえる。（もちろんコロナ禍の影響もあるだろう）。また、施設空間の市民の日常的利用においては、最寄り駅から遠くて交通の便がよくないこともあって市民の利用率は川崎市内の他の市民館と比べても決して多くはないという課題を抱えてきた。そのために幸市民館は日吉分館を含めて、本専門部会を通じて市民館と市民とのつながりをめぐってかなり以前より協議を継続してきた経緯がある。

市民館側が施設の利用の仕方や事業の提供のあり方においてもっと市民に寄り添う姿勢を見せてほしいといわれる一方、市民の方でより積極的に市民館の施設や事業に対して参画する意欲を出してもらいたいという意見も見られる。例えば、市民から市民館をこう使いたいという提案があまり見られないなどの点をどう考えるか、それは市民館が魅力を発信する力が弱いからではないか、広報活動の工夫が足りなのではないかなど、何度も繰り返し挙げられてきた課題であり今も続いて出される市民館をめぐる古くて新しい議論である。高い行政サービスが求められる時代の中で、市民館に対して「ああしてほしい」「こうすべきだ」という市民からの要求が強まる一方、市民の主体性はなぜか痩せ細る傾向もうかがえる。この点から懸念される点があるとすれば、幸市民館が指定管理者制度を導入することとなり自治体職員が事務所に常駐せず、新しい職員体制の下で市民と接することになる点などの事態に市民が直面することである。行政職員が後方支援に廻ることになるから安心だと果たしていえるだろうか。新しい市民館にも社会教育に高い見識を有する専門的職員が必要なのはいうまでもない。

今後の市民館の発展に向けた展望としては、すでに指定管理者制度が導入されている市内の市民館・図書館の先行事例に対して、その動向や評価をめぐって市民の声に耳を傾けながら、幸市民館らしい施設づくりを目指して市民とともに取り組んでいくことが必要である。現段階においては、川崎市における指定管理者制度のあり方に関してこれからの状況の推移を見守っていくしかないといえるかもしれない。

おわりに

今期の専門部会の研究は、これまでに述べてきたとおりであるが、具体的には令和 9 年度に指定管理者の選考があり、令和 10 年 1 月以降 現幸市民館職員と指定管理者の引き継ぎが行われると聞いている。そして、改修工事も終了した令和 10 年度（2028 年 7 月）からはリニューアルした幸市民館及び日吉分館は指定管理者による運営が始まる。

第 4 期教育振興基本計画においては、地域コミュニティの基盤を支える社会教育の重要性や必要性について『社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる。「人づくり・つながりづくり・地域づくりの循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる』と提示されている。今期の専門部会の研究テーマ「新しくなった市民館へ、ふらっと立ち寄ろう！」～リニューアルする幸市民館が市民にとって身近な場で、学び・つながり・地域づくりを進めるために～にも相応するものと言えるのではないだろうか。

この報告書の内容を充分活かし、指定管理者制度導入の際に市民館が社会教育施設として市民がより身近に思え、学び・つながり・地域づくりが進み、より活発な活動・事業運営がなされることを期待する。

また、幸市民館専門部会は社会教育委員会議の組織する部会であるので社会教育委員会議においても、ご一読いただき今後の川崎市の市民館の姿について示唆願いたい。

市民に対しても、多くの市民が閲覧できるような HP への掲載はもちろん、この冊子を印刷し手軽に持ち帰って見ることができるよう、配布方法も検討いただきたい。

そして、これからの川崎市の社会教育の推進のため、市民も行政もともに考える機会にさせていただけると幸いに思う。

報告書作成メンバー

石渡 裕美、梅原 七重、大塚 謙一郎、片岡 了、滝口 太志、夏井 美幸、松井 節子

参考文献

- ・「川崎市幸市民館・川崎市立幸図書館 改修基本計画」（令和 6 年 8 月）
- ・第 4 期教育基本計画（文部科学省 令和 5 年 6 月 16 日）

会議録

専門部会審議報告書

部 会 名	第 1 回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和 6 年 6 月 2 4 日 (月) 午後 2 時～午後 4 時 3 0 分
場 所	幸市民館第 1 会議室
出席者	<p><委員>石渡委員、梅原委員、大塚委員、片岡委員、滝口委員、夏井委員、松井委員（欠席：小泉委員）</p> <p><事務局>加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、高橋社会教育振興係長、松下管理担当係長</p>
議事項目	<p>(1) 川崎市幸市民館・川崎市立幸図書館改修基本計画（案）の策定について</p> <p>(2) 管理運営実施状況等について</p> <p>(3) 社会教育振興事業について ア 幸市民館社会教育振興事業 イ 日吉分館社会教育振興事業</p> <p>(4) 審議事項について</p> <p>(5) 市民自主学級・市民自主企画事業の選考について</p>
決定・確認事項	
<p>(1)～(3)の項目について 事務局等から報告を行い、各委員から質問や意見がなされた。</p> <p>(4) 審議事項について 今期審議のテーマ及び方向性の設定などについて、意見交換がなされた。</p> <p>(5) 提案 1 団体によるプレゼンの後、委員からの質疑応答、採点を実施。終了後、意見交換がなされた。</p>	
主な意見	
<p>(1) 川崎市幸市民館・川崎市立幸図書館改修基本計画（案）の策定について ・改修工事期間中、市民館で活動されている市民が、活動できる場所を案内してほしい。</p> <p>(2) 管理運営実施状況等について ・補修工事が毎年少しずつなので、大規模改修を機に、ホールの座席など一度に直してほしい。</p> <p>(3) 社会教育振興事業について ・7月に実施予定の現代的課題学習事業「もっと知りたい、世の中のお金のつかいかた」について、今回は子どもが対象とのことだが、大人にもニーズがあるのではないかと思う。 ・幸区提案型協働推進事業は、広報先を一緒に探すなど、伴走支援してほしい。</p> <p>(4) 審議事項について ・大規模改修工事前最後の任期でもあり、審議事項を報告書としてまとめることにした。</p>	
その他	
傍聴者：2名	

専門部会審議報告書

部 会 名	第2回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和6年9月25日（水） 午後2時から4時10分
場 所	幸市民館 第2会議室
出席者	委員 滝口委員、石渡委員、松井委員、梅原委員、大塚委員、夏井委員、 片岡委員 （欠席：小泉委員） 事務局 加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、松下管理担当係長、細井主任
議事項目	(1) 摘録の確認について (2) 管理運営実施状況等について (3) 社会教育振興事業について ア 幸市民館社会教育振興事業 イ 日吉分館社会教育振興事業 (4) 調査・審議事項について (5) その他

決定・確認事項

- (1) 前回の摘録について確認された。
- (2)～(3)の項目について
事務局等から報告を行い、実施内容などの確認がなされた。
- (4) 調査・審議事項について
今期審議のテーマ及び方向性の設定などについて、意見交換がなされた。

主な意見

社会教育振興事業について

- ・家庭・地域教育学級は参加者が少ないようだが、子育て支援事業などで、早い時期から声掛けをすべき。
- ・日吉分館でも生涯学習コーディネーターや市民学習ボランティアについて検討が必要。

調査・審議事項について

- ・改修後に向けて、理想の市民館みたいなものを考えるのはどうか。
- ・改修中のことと、改修後の市民館をどうするかということを分けた方がいい。どちらかと言えば改修後の指定管理者後の課題を考えていった方がよい。
- ・子どもでも使える取組みを増やしていき、子どもがどういうふうに市民館に関われるか考えていきたい。
- ・学校外の部活として市民館で活動できるものがあったら面白い。

その他

傍聴者：2名

専門部会審議報告書

部 会 名	第3回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和6年12月23日(水) 午後2時～午後4時15分
場 所	幸市民館第2会議室
出席者	<委員>石渡委員、梅原委員、大塚委員、片岡委員、滝口委員、夏井委員、松井委員(欠席:小泉委員) <事務局>加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、松下管理担当係長、嶋津職員
議事項目	(1) 摘録の確認について (2) 管理運営実施状況等について (3) 社会教育振興事業について ア 幸市民館社会教育振興事業 イ 日吉分館社会教育振興事業 (4) 審議事項について

決定・確認事項

- (1)～(3)の項目について
事務局等から報告を行い、各委員から質問や意見がなされた。
- (4) 審議事項について
ギガ端末、市民館だより及びイベント時に、市民館についてアンケートを実施する。

主な意見

- (1) 社会教育振興事業について
・市民講師事業の参加者を市民館関連団体の講師として紹介してほしい。
- (2) 審議事項について
・負担が少ないのでこれからの市民館で行われる事業でアンケートを何回か実施してはどうか。
・小学生も中学生も一人1台ギガ端末を持っているので、アンケートについては各学校に協力依頼すれば、かなりの数が集められる。
・アンケートは、市民館での実施事業を周知していく効果も狙って作ってみてはどうか。
・「新しくなった市民館を利用したいか。」の設問は、市民館だよりを見た人だと意味がある。

その他

傍聴者：なし

専門部会審議報告書

部 会 名	第 4 回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和 7 年 2 月 1 6 日 (日) 午後 1 時～午後 4 時 4 5 分
場 所	幸市民館第 1 会議室
出席者	<p><委員>梅原委員、大塚委員、片岡委員、滝口委員、夏井委員、松井委員 (欠席：石渡委員、小泉委員)</p> <p><事務局>加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、松下管理担当係長、細井主任、 嶋津職員、谷口主任</p>
議事項目	<p>(1) 市民自主学級・市民自主企画事業の選考について</p> <p>(2) 摘録の確認について</p> <p>(3) 管理運営実施状況等について</p> <p>(4) 社会教育振興事業について ア 幸市民館社会教育振興事業 イ 日吉分館社会教育振興事業</p> <p>(5) 調査・審議事項</p>
決定・確認事項	
<p>(1) 提案 3 団体によるプレゼンの後、委員からの質疑応答、採点を実施。終了後、意見交換がなされた。</p> <p>(2) ～(4) の項目について 事務局等から報告を行い、各委員から質問や意見がなされた。</p> <p>(5) 調査・審議事項について 市民館だより等で市民館についてのアンケートを実施する内容について確定した。</p>	
主な意見	
<p>(1) 社会教育振興事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現役世代で市民館の講座に参加してくれる方は貴重なのでサークルや団体につながるように育ててほしい。(幸市民館) ・ 講師の方の人間性を知る機会になるような展開を期待する。(日吉分館) <p>(2) 審議事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リニューアルする市民館に関してのアンケートがテーマ。見出しのリード文が令和 8 年から始まる文章で二次元コードを入れる。 ・ アンケート後にどのようにまとめたいかにより具体的な項目を作るか決めるとよい。 	
その他	
傍聴者：なし	

専門部会審議報告書

部会名	第1回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和7年6月23日(月) 午後2時～午後4時30分
場 所	幸市民館第3会議室
出席者	<p><委員>梅原委員、大塚委員、片岡委員、夏井委員 (欠席:石渡委員、小泉委員、滝口委員、松井委員)</p> <p><事務局>加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、松下社会教育振興係担当係長、高柳主任、能登管理担当係長</p>
議事項目	<p>(1) 摘録の確認について</p> <p>(2) 管理運営実施状況等について</p> <p>(3) 社会教育振興事業について ア 幸市民館社会教育振興事業 イ 日吉分館社会教育振興事業</p> <p>(4) 調査・審議事項について ・委員による「市民館についてのアンケート」の集計結果の報告 ・専門部会の報告書(案)</p>

決定・確認事項

- (1) 摘録の確認について
承認
- (2) 管理運営実施状況等について
日常管理についての報告及び2月18日付け報道発表資料「川崎市幸市民館・川崎市立幸図書館」の改修工事の実施に伴う施設の利用を休止します」の提供及び報告
- (3) 社会教育振興事業について
実施状況及び今後の予定について報告
- (4) 審議事項について
委員による「市民館についてのアンケート」集計の結果による分析を行い、意見交換がなされた。また、報告書作成に向けて担当の割振りが行われた。

主な意見

- (1) 川崎市幸市民館・川崎市立幸図書館改修後の施設の利用について
・改修工事前に図面等を確認したいという要望があった。
- (2) 社会教育振興事業について
・コロナ前後での機能の変化、特にWi-Fi等のインフラがどのように活用されているかについて質問があり、会議・打合せで利用しており、講座は現在は対面重視と回答。委員からは、オンライン活用も広げてほしいと要望があった。
- (3) アンケート集計について
・改修の認知度は低いが、利用意向は非常に高い。
・改修関係の周知方法を多様な方法で活用することが効果的と提案があった。
・市民の意見を反映した、魅力的なフリースペースがほしい。

その他

傍聴者：2名

専門部会審議報告書

部会名	第2回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和7年10月7日(火) 午後2時～午後4時00分
場所	幸市民館第3会議室
出席者	<p><委員>石渡委員、梅原委員、大塚委員、滝口委員、夏井委員、松井委員 (欠席：片岡委員、小泉委員)</p> <p><事務局>加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、松下社会教育振興係担当係長、高柳主任、能登管理担当係長</p>
議事項目	<p>(1) 摘録の確認について</p> <p>(2) 管理運営実施状況等について</p> <p>(3) 社会教育振興事業について ア 幸市民館社会教育振興事業 イ 日吉分館社会教育振興事業</p> <p>(4) 調査・審議事項について ア 報告書(案)</p>

決定・確認事項

- (1) 摘録の確認について
承認
- (2) 管理運営実施状況等について
 - ・ 日常管理及び今後の補修工事等について報告
 - ・ 9月5日の大雨による舞台下手に雨漏り、イラガ発生の報告
- (3) 社会教育振興事業について
実施状況及び今後の予定について報告
- (4) 審議事項について
委員による報告書(案)の構成・担当割り当ての確認や体裁・表記等について統一し、今後のスケジュールについての話し合いが行われた。

主な意見

- (1) 幸市民館の舞台下手の雨漏りについて
 - ・ 雨漏りの原因が判明しているか委員から質問。屋上を確認、補修対応を何度かしているが、原因箇所は不明。今後も大雨により、漏水が発生する可能性があることを報告。
- (2) 社会教育振興事業について
 - ・ 障害者社会参加学習活動「サンデーフレンドパーク」について福祉バスの利用について委員から質問があり、年2回利用でき、遠出も出来るため好評を得ている旨回答。
 - ・ オータムミュージックフェアのギターについて委員から質問があり、ギターはアンプ接続(エレキギター)で実施予定との回答。
- (3) 報告書(案)について
 - ・ 報告書案の構成・担当割り当ての確認を行った。また、年号表記や文体は統一する方針で合意。文言の細部(語尾・言い回し)は適宜修正し、誤解を招かないようという意見があった。
 - ・ 委員名簿・作成委員の扱いについて、報告書の正確性と公平性の観点から、次回までに方針を検討継続となった。

その他

傍聴者：なし

専門部会審議報告書

部 会 名	第3回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和7年12月19日（金） 午後2時～午後4時
場 所	幸市民館第1会議室
出席者	<p><委員>石渡委員、梅原委員、大塚委員、片岡委員、夏井委員、松井委員 （欠席：滝口委員、小泉委員）</p> <p><事務局>加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、松下社会教育振興係担当係長、 能登管理担当係長</p>
議事項目	<p>(1) 摘録の確認について</p> <p>(2) 管理運営実施状況等について</p> <p>(3) 社会教育振興事業について ア 幸市民館社会教育振興事業 イ 日吉分館社会教育振興事業</p> <p>(4) 審議事項について</p>

決定・確認事項

- (1) 摘録の確認について
一部修正して承認
- (2) 管理運営実施状況等について
日常管理及び今後の補修工事等について報告
- (3) 社会教育振興事業について
実施状況及び今後の予定について報告
- (4) 審議事項について
委員による報告書（案）の体裁・表記等再確認、内容についての話し合いが行われた。

主な意見

- (1) 社会教育振興事業について
 - ・ 夜間識字・夜間講座への中学生参加条件（保護者同伴必須/単独可）について知りたい。
 - ・ 市民館コミュニティ推進事業について改修中の事業継続の有無について知りたい。
 - ・ 地域課題事業等などの保険の有無と参加者向けの案内について
- (2) 審議事項について
 - ・ 内容・表現の修正、標記の統一について話し合いが行われた。
 - ・ 「専門部会委員名簿」を全委員の氏名を五十音順で掲載し、作成協力者の氏名を「報告書作成者」として追記することが決定した。
 - ・ 修正版を共有後、フィードバックを依頼し、次回迄にほぼ完成形とすることを確認した。

その他

傍聴者：なし

専門部会審議報告書

部 会 名	第4回 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
開催日時	令和8年2月15日(日) 午後1時～午後4時
場 所	幸市民館第1会議室
出席者	<p><委員>梅原委員、大塚委員、片岡委員、夏井委員、松井委員、滝口委員 (欠席:石渡委員、小泉委員)</p> <p><事務局>加藤幸市民館長、藤田日吉分館長、松下社会教育振興係担当係長、 能登管理担当係長、細井主任、高柳主任、谷口主任、 教育委員会事務局生涯学習推進課</p>
議事項目	<p>(1) 市民自主学級・市民自主企画事業の選考について</p> <p>(2) 摘録の確認について</p> <p>(3) 管理運営について 幸市民館・図書館改修工事について</p> <p>(4) 社会教育振興事業について</p> <p>(5) 調査・審議事項について</p>
決定・確認事項	
<p>(1) 提案3団体によるプレゼンの後、委員からの質疑応答、採点を実施。終了後、意見交換がなされた。</p> <p>(2)～(4)の項目について……事務局等から報告を行い、各委員から質問や意見がなされた。</p> <p>(3)「幸市民館・図書館改修工事について」教育委員会生涯学習推進課より報告があった</p> <p>(4)社会教育振興事業についての質問はなし。</p> <p>(5)調査・審議事項について、報告書の最終確認を行った。</p>	
主な意見	
<p>(1) R8の市民自主企画事業実施に向け、年度後半実施の会場確保及び会場使用料が提案者の負担にならないよう、市民館が調整して実施出来るようにして欲しい。 受益者負担の費用についても物価高騰も配慮し、設定するように。</p> <p>(2)「幸市民館・図書館改修工事について」各委員からの要望を伝えた。</p> <p>(3)社会教育振興事業について……これからの年度末までの事業について、参加人数の確定は次年度の第1回専門部会で報告する。</p> <p>(4) 審議事項について ・報告書について本日の生涯学習推進課からの改修工事についての説明で報告書に追記・修正を行い、最終確認をした。年度末には各委員・社会教育委員会議に配布。併せてHPの掲載市民への配布用の報告書を印刷し配布することを確認。</p>	
その他	
傍聴者：なし	

専門部会委員名簿

令和6・7年度 社会教育委員会議幸市民館専門部会委員一覧及び専門部会開催日
(50音順) (◎は会長、○は副会長)

	氏名	所属	開催年月日
	石渡 裕美	幸区PTA連絡協議会	1 令和6年6月24日
	梅原 七重	幸サークル連絡会 会計	2 令和6年9月25日
	大塚 謙一郎	幸区地域教育会議 議長	3 令和6年12月23日
	片岡 了	明治大学 兼任講師	4 令和7年2月16日
	小泉 愉孝	鹿島田幼稚園園長	5 令和7年6月23日
○	滝口 太志	御幸小学校 校長	6 令和7年10月7日
◎	夏井 美幸	公募委員	7 令和7年12月19日
	松井 節子	幸区文化協会 理事	8 令和8年2月15日

令和6・7年度 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会報告書

「新しくなった市民館へ、ふらっと立ち寄ろう！」
～リニューアルする幸市民館が区民にとって身近な場で、
学び・つながり・地域づくりを進めるために～

編集 川崎市社会教育委員会議 幸市民館専門部会
発行 令和8年(2026年)3月
川崎市幸市民館
電話 044-541-3910
FAX 044-555-8224



幸市民館 HP



幸市民館日吉分館 HP